

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語科指導法Ⅰ (TEFLⅠ)						科目分類	教職課程科目	
担当教員	廣本 和枝								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本人が英語を学ぶ場合に留意しなければならない点を、音声、語彙、文法の各項目について、具体的にテキストとハンドアウトの英文を用いて考える。この作業をしながら、文部科学省の指導要領で採用している「学校文法」(pedagogic grammar)について理解を深める。生徒を指導できるに十分な英語の運用能力の基礎固めをする。									
授業目標： 英語の教員として自信を持って教壇にたてるようになるために、最低限必要な英語の基礎固めをすることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	学校文法：名詞・代名詞					事前：Text pp.12-19 事後：シャドウイング		演習 90分	
2	学校文法：動詞					事前：Text pp.20-23 事後：シャドウイング		演習 90分	
3	学校文法：助動詞					事前：Text pp.24-27 事後：シャドウイング		演習 90分	
4	学校文法：形容詞・副詞					事前：Text pp.28-33 事後：シャドウイング		演習 90分	
5	学校文法：単語の役割と文・文の種類・主述の一致					事前：Text pp.34-47 事後：シャドウイング		演習 90分	
6	学校文法：現在形と現在進行形					事前：Text pp.48-51 事後：シャドウイング		演習 90分	
7	学校文法：過去形と現在完了形					事前：Text pp.52-55 事後：シャドウイング		演習 90分	
8	学校文法：過去進行形と過去完了・動詞の変形					事前：Text pp.56-63 事後：シャドウイング		演習 90分	
9	学校文法：受動態					事前：Text pp.100-103 事後：シャドウイング		演習 90分	
10	学校文法：分詞					事前：Text pp.70-73 事後：シャドウイング		演習 90分	
11	学校文法：関係代名詞・関係副詞					事前：Text pp.74-83 事後：シャドウイング		演習 90分	
12	学校文法：原級・比較級・最上級					事前：Text pp.84-87 事後：シャドウイング		演習 90分	
13	学校文法：接続詞・前置詞					事前：Text pp.88-95 事後：シャドウイング		演習 90分	
14	学校文法：不定詞・動名詞					事前：Text pp.96-99 事後：シャドウイング		演習 90分	
15	学校文法：仮定法・疑問詞					事前：Text pp.104-111 事後：シャドウイング		演習 90分	
教本： 『TOEIC テスト 書き込みノート 文法編 新形式に対応!』学研 ¥1,300 税別 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示） 解説：外国語編』開隆堂 ¥119 税別					参考文献： <i>How English Works: A Grammar Practice Book</i> M. Swan, & C. Walter, Oxford Univ. Press				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（40%）、定期試験（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 標準的な文法用語を理解できるようになってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 科 指 導 法 Ⅱ (TEFL Ⅱ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 中学・高校での英語教員となるために必要な力を養うために、配布するハンドアウトの項目ごとの'Activities'を実践する。英語の教授法について理解を深め、文部科学省の学習指導要領に基づいて教案作成ができるようになるための基礎知識を学ぶ。									
授 業 目 標 : 英語の教員として自信を持って教壇にたてるようになるために、最低限必要な英語教育の基礎固めをすることを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	学 習 指 導 要 領 (小 学 校、中 学 校) 教 科 書 pp. 27-34					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
2	学 習 指 導 要 領 (中 学 校、高 校) 教 科 書 pp. 34-37					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
3	国 際 基 準 Common European Framework of Reference: Can-Do-List 中 学 校 教 科 書 と コ ー ス ブ ッ ク <i>Four Corners</i> の 実 例					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
4	教 授 法 (Language Teaching Methodology: Method, Approach, Design, Procedure) Handouts pp. 1-3, 教 科 書 pp. 78-79					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
5	教 授 法 の 比 較 (Language Teaching Methodology: The Table) Handouts pp. 4-5, 教 科 書 pp. 79-96					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
6	CLT の 定 義 (the definition of 'communicative approach') Handouts pp. 6-8, 教 科 書 pp. 89-96					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
7	CLT (Communicative Language Teaching) Handouts pp. 9-11, 中 学 校 教 科 書 の 実 例					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
8	Tasks of CLT (Tasks of Communicative Language Teaching) Handouts pp. 9-11, コ ー ス ブ ッ ク <i>Four Corners</i> の 実 例					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
9	第 二 言 語 の 習 得 : 概 要 (Second Language Acquisition: Communication) Handout pp. 12, 教 科 書 pp. 97-101					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
10	第 二 言 語 の 習 得 : 動 詞 (Second Language Acquisition: How to Deal with Verbs) Handouts pp. 13-14, 教 科 書 pp. 101-106					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
11	第 二 言 語 の 習 得 と 自 身 の シ ス テ ム (Second Language Acquisition and Your Own System) Handouts pp. 15-17, 教 科 書 pp. 106-109					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
12	学 校 文 法 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (Pedagogic Grammar and Communication) Handouts pp. 18-19, 教 科 書 pp. 226-230					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
13	学 校 文 法 は 大 雑 把 (Pedagogic Grammar as the Rule of Thumbs) Handouts pp. 20-21, 教 科 書 pp. 230-240					事 前 : 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
14	学 習 者 の 要 因 (Learners Factors) 教 科 書 p. 38-44					事 前 : 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
15	学 習 者 の 方 略 (Learners Strategy) 教 科 書 pp. 44-51					事 前 : 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
教 本 : 【新学習指導要領にもとづく英語科教育法】第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 + 税 【文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説:外国語編】 開隆堂 ¥119 + 税					参 考 文 献 : <i>A Framework for Task-Based Learning</i> J. Willis Longman				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 (50%)、定 期 試 験 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 副 教 材 と し て 英 語 で 書 か れ た ハ ン ド ア ウ ト を 配 布 し ま す の で、教 科 書 の 該 当 す る と こ ろ を 参 照 し て、ハ ン ド ア ウ ト の 'Activities' の 要 旨 を 理 解 す る よ う に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 科 指 導 法 Ⅲ (TEFL Ⅲ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	英 語 科 指 導 法 Ⅰ ・ Ⅱ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 外国語としての英語教育について、演習形式で学ぶ。ハンドアウトの 'Activities' についてディスカッションをしながら、要点を明確にしていく。自分の英語学習の体験に基づいて積極的に発言することが望まれる。									
授 業 目 標 : 英語教育の理論や研究について学び、それらを用いて、文部科学省の学習指導要領に沿った教案を準備できるようにすることが目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	英語教育について 教科書 pp. 3-13					事前：なし 事後：ディスカッション		演習 90分	
2	英語の国際化 教科書 pp. 14-26					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
3	日本の英語教育概観：ハンドアウト 山田雄一郎著『日本の英語教育』抜粋 教科書 p. 26					事前：教科書を読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
4	語彙：形態素とイディオム (Lexis: Morphemes and Idioms) Handouts pp. 21-23 教科書 pp. 241-249					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
5	語彙：コロケーション (Lexis: Collocation) Handouts pp. 24-25 教科書 pp. 249-253					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
6	シラバスと教科書 (Syllabus and Coursebook) Handout p. 25 教科書 pp. 213-216					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
7	シラバスと教材 (Syllabus and Materials: Sequencing of Grammar Items) Handout p. 26 教科書 pp. 216-220					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
8	シラバスと教材：本物らしさ (Syllabus and Materials: AReal-World Interaction) Handouts pp. 27-28 教科書 pp. 220-223					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
9	シラバスと教材の実例 (Syllabus and Materials: Handout, 'Find seven differences') 教科書 pp. 223-225					シラバス		演習 90分	
10	教室での談話：前置き (Classroom and Spoken Discourse: Introduction) Handout p.29					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
11	教室での談話と談話分析 (Classroom and Spoken Discourse: Analyzing Classroom Discourse) Handouts pp. 30-31					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
12	音韻体系：調子単位 (Phonology: Tone Unit) Handouts pp. 32-33					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
13	音韻体系：同時調音・同化・音脱落 (Phonology: Co-articulation, Assimilation and Elision) Handout p. 33					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
14	音韻体系：音のつながりの要因 (Phonology: Stream factors) Handout p. 34 教科書 p. 145					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
15	復習：CLTとタスク (Review: Communicative Language Teaching and Tasks)					事前：ハンドアウト参照 事後：ディスカッション		演習 90分	
教 本 : 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 + 税 『文部科学省 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説：外国語編』開隆堂 ¥119 + 税					参 考 文 献 : A Framework for Task-Based Learning J. Willis Longman				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 (50%)、定 期 試 験 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 毎 に 次 の 授 業 の 資 料 を 配 布 し ま す の で、目 を 通 し て 授 業 に 臨 ん で く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 科 指 導 法 Ⅳ (TEFL Ⅳ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	英 語 科 指 導 法 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>外国語としての英語教育について、より具体的に、四技能の指導やクラス運営について学ぶ。教材を各自選んで、学んだことを実際に試み、教授法や評価法、あるいは教材そのものについて考察し、ディスカッションする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>英語教育の理論や研究について学び、それらを用いて文部科学省の学習指導要領に沿った教案を作成し、教室で具体的に実践できるようになることが目標である。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	コミュニケーション活動の育成 参考教材例資料 教科書 pp. 110-119					事前：なし 事後：ディスカッション		演習 90分	
2	リスニングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 120-134					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
3	スピーキングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 135-147					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
4	リーディングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 148-162					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
5	ライティングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 163-177					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
6	ティーム・ティーチング(Team Teaching) 教科書 pp. 178-187					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
7	測定と評価 (Testing) Handouts pp. 42-43 教科書 pp. 188-200					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
8	授業運営 (Classroom Management) Handouts pp. 44-46 教科書 pp. 255-258					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
9	授業分析 (Classroom Research and Research Method) Handouts p.35-36 教科書 pp. 258-266					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
10	教員養成 (Teacher Training) および ICT と e ラーニング Handouts pp. 47-48 教科書 pp. 52-62					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
11	模擬授業準備 模擬授業使用教科書から実施する課を決定 教科書 pp. 264-266					事前：教科書の課を一つ選ぶ 事後：ディスカッション		演習 90分	
12	模擬授業準備 教案・教材作成 教科書 pp. 274-282					事前：教材収集・作成 事後：ディスカッション		演習 90分	
13	第 1 回 模 擬 授 業 実 施 と 考 察					事前：模擬授業練習 事後：ディスカッション		演習 90分	
14	模 擬 授 業 の 教 案 ・ 教 材 の 修 正 お よ び 追 加 な ど					事前：修正授業案の作成 事後：ディスカッション		演習 90分	
15	第 2 回 模 擬 授 業 実 施 と 考 察					事前：模擬授業練習 事後：ディスカッション		演習 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
<p>【新学習指導要領にもとづく英語科教育法】第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 + 税 【文部科学省 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説：外国語編】 開隆堂 ¥119 + 税</p>					<p><i>A Framework for Task-Based Learning</i> J. Willis Longman</p>				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>授業参加状況 (50%)、定期試験 (50%) で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>授業毎に次の授業の資料を配布しますので、目を通して授業に臨んでください。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	外国史論 I (History of the World I)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：基礎的な外国史。授業の内容：1. アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学びの学習法)型授業を通じて生きる力(自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心<感情の知性>、知・徳・体)を育む。インターアクションで自己肯定感を高める。2. 多元的で情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識+討論+思考=独創性開発。4. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、必ず勉強はできるようになる)。5. わかりやすい。6. ICT(情報通信技術)でやる気にさせる。7. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感(self-efficacy)の達成経験、言語的説得、代理体験、心理的情緒高揚で成績を高める。8. 夢(Dreams come true. 夢が叶う)と目標を達成させる。</p> <p>授業目標：基礎レベルの外国史。本授業のテーマは外国史(世界史)で基礎レベルの古代史、中世史、近世史、近代史、現代史のグローバル・ヒストリーである。グローバル・ヒストリーは、オリエント世界、地中海世界、南アジア世界、アメリカ世界、内陸アジア世界、東アジア世界、イスラーム世界、東南アジア世界、ヨーロッパ世界、アフリカ世界の異文化間の交流ネットワークである。到達目標は外国史をグローバル・ヒストリーとしてとらえ、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や外国文化尊重の大切さについての自覚を深めるようになることである。</p> <p>授業の目標：1. 外国史の歴史的な考え方ができるようにさせ、2. 外国史の課題を追究させ、解決させ、3. 平和で民主的な公民を育成させる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態		
1	外国史論 I の目次の説明(古代史、中世史、近世史、近代史、現代史)口頭 Q&A をする。アンケートをする。			事前：教科書の目次の下読みをする。 事後：教科書の目次をノートに書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A 10分。 アンケート 10分。自己紹介 30分。		
2	文明の成立と古代文明の特質について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。課題をする。			事前：文明の成立と古代文明の特質の下読みをする。 事後：文明の成立と古代文明の特質のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。課題10分。		
3	中央ユーラシアと東アジア世界について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。課題をする。			事前：中央ユーラシアと東アジア世界の下読みをする。 事後：中央ユーラシアと東アジア世界のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。課題10分。		
4	南アジア世界と東南アジア世界の展開について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。課題をする。			事前：南アジア世界と東南アジア世界の展開の下読みをする。 事後：南アジア世界と東南アジア世界の展開のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。課題10分。		
5	西アジアと地中海周辺の国家形成について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。第1回小テストを行う。			事前：西アジアと地中海周辺の国家形成の下読みをする。 事後：西アジアと地中海周辺の国家形成のポイントを書く。			講義説明20分。小テスト60分。 アンケート10分。		
6	イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向の下読みをする。 事後：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。		
7	ヨーロッパ世界の変容と展開について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：ヨーロッパ世界の変容と展開の下読みをする。 事後：ヨーロッパ世界の変容と展開のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。		
8	東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代の下読みをする。 事後：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。		
9	アジアの諸帝国の繁栄について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：アジアの諸帝国の繁栄の下読みをする。 事後：アジアの諸帝国の繁栄のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。		
10	近世ヨーロッパ世界の動向について説明する。第2回小テストを行う。			事前：近世ヨーロッパ世界の動向の下読みをする。 事後：近世ヨーロッパ世界の動向のポイントを書く。			講義説明30分。小テスト60分。		
11	産業革命と環大西洋革命について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：産業革命と環大西洋革命の下読みをする。 事後：産業革命と環大西洋革命のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。		
12	イギリスの優位と欧米国民国家について説明する。口頭 Q&A をする。ディスカッションをする。			事前：イギリスの優位と欧米国民国家の下読みをする。 事後：イギリスの優位と欧米国民国家のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 ディスカッション40分		
13	アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動の下読みをする。 事後：アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。		
14	第一次世界大戦と第二次世界大戦について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：第一次世界大戦と第二次世界大戦の下読みをする。 事後：第一次世界大戦と第二次世界大戦のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。		
15	冷戦と今日の世界について説明する。(基礎)外国史論 I のまとめをする。			事前：冷戦と今日の世界の下読みをする。 事後：冷戦と今日の世界のポイントをノートに書く。			講義説明60分。口頭 Q&A 20分。 アンケート10分。		
<p>教本： 木村靖二、岸本美緒、小松久男、橋場弦(著)、『世界史探究 詳説世界史』、山川出版社、2023年3月出版、ISBN 978-4-634-70131-1、¥860。</p>					<p>参考文献： 川北稔、桃木至朗(監)、帝国書院編集部(編)、『最新世界史図説タペストリー 一七訂版』、帝国書院、2019年、¥957。 世界史小辞典編集委員会(編)、『山川世界史小辞典(改訂新版)』、山川出版社、2011年、¥3,080。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 第15回目の授業時めきりの期末小論文(40%)、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点(60%)。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 私伊藤幹彦が、自己効力理論で授業を行い、学生は主体的に学習し、実力がつく。 1. 外国史の知識(頭脳の知性)向上、2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。 学生の皆さんに A4 の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。</p>									
<p>オフィスアワー：初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	外国史論Ⅱ (History of the World II)						科目分類	教職課程科目	
担当教員	伊藤 幹彦								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 応用的な外国史論Ⅱ。1. アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学びの学習法)型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感(self-efficacy)の授業。4. 成功哲学(信念+努力=成功つまり目標達成)。5. 夢(Dreams come true. 夢が叶う)と目標を達成させる。									
授業目標： 授業のテーマは、応用レベルの外国史論でグローバル・ヒストリーの世界史(外国史)の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史概論である。到達目標は、時間的に数世紀単位で空間的に地球的規模で世界の諸地域や各人間集団の相互連関の世界史を理解させることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態		
1	外国史論Ⅱの目次の説明(東アジア史、東南アジア史、西アジア史、欧州史、米国史) 口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：教本の目次の下読みをする。 事後：教本の目次をノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。		
2	古代のユーラシアネットワークについて 口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：古代のユーラシアネットワークの下読みをする。 事後：古代のユーラシアネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。		
3	唐帝国とアジアのネットワークについて 口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：唐帝国とアジアのネットワークの下読みをする。 事後：唐帝国とアジアのネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。		
4	イスラーム世界のネットワークについて 口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：イスラーム世界のネットワークの下読みをする。 事後：イスラーム世界のネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。		
5	アジアのネットワークについて 口頭Q&Aをする。アンケートをする。第1回小テストをする。			事前：第1回小テストのネットワークのポイントを覚える。 事後：第1回小テストのネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明20分。小テスト60分。アンケート10分。		
6	大モンゴル国とネットワークについて 口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：大モンゴル国とネットワークの下読みをする。 事後：大モンゴル国とネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。		
7	明帝国と清帝国のネットワークについて 口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：明帝国と清帝国のネットワークの下読みをする。 事後：明帝国と清帝国のネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。		
8	東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏について、口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏の下読みをする。 事後：東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。		
9	東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易について、口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易の下読みをする。 事後：東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。		
10	アジアとヨーロッパのネットワークについて 口頭Q&Aをする。第2回小テストをする。			事前：第2回小テストのネットワークのポイントを覚える。 事後：第2回小テストのネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明30分。小テスト60分。		
11	アジアとイギリス海洋帝国とネットワークについて、口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークの下読みをする。 事後：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。		
12	アジアとアメリカ合衆国とネットワークについて、口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。			事前：アジアとアメリカ合衆国とネットワーク1とネットワークの下読みをする。 事後：アジアとアメリカ合衆国とネットワーク1のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。ディスカッション40分		
13	アジア交流圏とネットワークの形成について 口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：アジア交流圏とネットワークの形成の下読みをする。 事後：アジア交流圏とネットワークの形成のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。		
14	交流圏とネットワークの展開について 口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：交流圏とネットワークの展開の下読みをする。 事後：交流圏とネットワークの展開のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。		
15	応用レベルの外国史論Ⅱのまとめ 口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：これまでに書いたノートの下読みをする。 事後：これまでに学んだすべての授業内容のポイントを復習する。			講義説明60分。口頭Q&A20分。アンケート10分。		
教本： 木村靖二、岸本美緒、小松久男(編)、『詳説世界史研究』、山川出版社、2019年。					参考文献： 世界史小辞典編集委員会(編)、『山川世界史小辞典(改訂新版)』、山川出版社、2011年。				
成績評価の方法、評価基準： 第15回目の授業時めきりの期末小論文(40%)、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点(60%)。									
学生へのアドバイス： 1. 外国史の知識(頭脳の知性)向上、2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。 学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育課程論 (Curriculum Study)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	山本美紀・大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」に基づき、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について学びます。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラム及びカリキュラム評価の基礎的な考え方を身に付けることを目的とします。									
授業目標： ①学習指導要領の改訂の変遷とその社会的背景を説明できる。 ②教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明できる。 ③教育課程編成の基本原則を理解し、学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を検討できる。 ④学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明できる。 ⑤カリキュラム評価の基礎的な考え方を述べるができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。教育課程とは何か、について学ぶ。（山本・大沢）					事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー		アイスブレイク(10分) 講義(80分)	
2	教育課程とカリキュラムについて学ぶ。（大沢）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
3	日本における教育課程の基本構造について学ぶ。（大沢）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
4	教育課程と学習指導要領について学ぶ。（大沢）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
5	教育課程行政と諸制度について学ぶ。（大沢）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
6	教科書と学習指導要領について学ぶ。（大沢）					事前：テーマについて下調べ 事後：小テストの振り返り		講義(60分) 小テスト(30分)	
7	総合的な学習の時間の背景と変換について学ぶ。（大沢）					事前：テーマについて下調べ 事後：レポート課題		講義(70分) シンクベアシェア(20分)	
8	カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。（大沢）					事前：テーマについて下調べ 事後：レポート課題（最終版）		講義(70分) シンクベアシェア(20分)	
9	カリキュラム評価について学ぶ。（山本）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(70分) シンクベアシェア(20分)	
10	高等学校の多様な教育課程について学ぶ。（山本）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(70分) シンクベアシェア(20分)	
11	学習指導要領の変遷(1) 戦後復興からゆとり路線までについて学ぶ。（山本）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(60分) ディスカッション(30分)	
12	学習指導要領の変遷(2) グローバル化と学力観の転換について学ぶ。（山本）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(60分) ディスカッション(30分)	
13	日本における教育課程の開発と研究制度について学ぶ。（山本）					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
14	多文化共生を目指す教育課程の動向について学ぶ。（山本）					事前：テーマについて下調べ 事後：学びのマップ作成		講義(60分) グループワーク(30分)	
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。（山本）					事前：ポートフォリオの整理 事後：学びの振り返りを行う		講義(40分) 試験(50分)	
教本： 吉田武雄監修・根津朋美編著『MINERVA 初めて学ぶ教職 教育課程』 ミネルヴァ書房 ISBN：978-4-623-08486-9					参考文献： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』 その他、必要に応じて授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、レポート課題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、（第15回）試験：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： 教育課程とカリキュラムについて理解を深めることによって、「何のために学び・教えるか」という問いと答えを見出す機会にしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 原 理 (Foundations of Education)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 教育の理念と意味、教育思想の歴史の変遷、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会の教育のあり方、現代の喫緊の課題などを理解させる。教育の基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動実践原理の体系的な理解を促す。									
授 業 目 標 : 教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史の変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	教育の意義				事前：教育の記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
2	教育の目的・理念				事前：望ましい人間像を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
3	家庭教育 (家族の教育)				事前：家庭で受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分	
4	学校教育				事前：家庭と学校の違いを考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
5	社会教育				事前：地域の行事を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
6	諸外国の教育思想と歴史 (古代)				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
7	諸外国の教育思想と歴史 (中世とルネッサンス期)				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
8	諸外国の教育思想と歴史 (近代)				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
9	我が国の教育思想と歴史				事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
10	人権教育				事前：人権に関する新聞記事を読む 事後：討論の結果を読み返す			グループ討論 60分、 発表 30分	
11	近代の教育制度・教育法規の基礎				事前：教育法規を調べておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
12	教育の内容				事前：望ましい経験について考えておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
13	教育の方法				事前：教育方法について事前学習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
14	教育実践の様々な取り組み				事前：PCで世界の教育を調べてみる 事後：討論の結果を読み返す			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分	
15	生涯学習と現代の教育課題				事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：なし			グループ討論 45分、 講義 45分	
教 本 : 教 本 :『教育の知恵60』(大沢裕編著、一藝社)					参 考 文 献 : 適宜、授業時に掲示する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方が身についているかを、討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。評価の配分基準：討論の発表内容 (10%)、レポート内容 (30%)、筆記試験 (60%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 絶えず教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	教 育 実 習 I (Practice Teaching I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 職 課 程 履 修 生 し か 受 講 で き ま せ ン							
授 業 概 要 :									
来 年 度、教 育 実 習 に 行 く こ と を 前 提 と し、模 擬 授 業 を 軸 に 実 践 的 な 訓 練 を し て い き ま す。									
授 業 目 標 :									
教 育 実 習 生 と し て 必 要 な 知 識 ・ 資 質 に つ い て 改 め て 自 己 認 識 自 己 評 価 を し、主 体 的 に 学 ぶ 姿 勢 を 育 成 し て い き ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テー シ ョ ン				事 前 : な し 事 後 : 次 回 の 配 布 資 料 を 読 む。			講 義 70 分 ・ 発 表 20 分	
2	教 育 実 習 と は 何 か 教 育 実 習 中 の 時 間 の 過 ぎ し 方 を 理 解 す る と 共 に、そ れ ぞ れ 課 題 を 考 え て み ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
3	教 育 実 習 生 に 必 要 な も の と は 何 か 実 習 生 と し て ど ん な 準 備 が 必 要 だ と 思 う か、具 体 的 に 話 し 合 い、自 覚 を 高 め て い き ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
4	教 育 実 習 に 行 く た め に I (理 想 と す る 教 師 と は) 実 習 に 行 く 前 に、改 め て 自 分 に と つ て 理 想 と す る 教 師 像 は 何 か を 確 認 し ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
5	教 育 実 習 に 行 く た め に II (個 人 情 報 の 取 り 扱 い に つ い て) 個 人 情 報 を 取 り 扱 う 注 意 点 や 責 任 の 重 さ に つ い て 考 え ま す。				事 前 : 個 人 情 報 に 関 連 し た 事 件 を 調 べ る。 事 後 : 授 業 内 容 を ま と め る。			講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
6	子 ど も の 権 利 条 約 実 習 に 行 く に 当 た り、「子 ど も の 権 利 条 約」を 理 解 し、子 ど も の 人 権 に つ い て 考 え ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワー ク 30 分	
7	障 害 者 の 権 利 に 関 す る 条 約 障 害 者 の 権 利 に 関 す る 条 約 を 理 解 し、障 害 者 の 人 権 と 「合 理 的 配 慮」に つ い て 理 解 し ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワー ク 30 分	
8	主 体 的 な 学 び に つ い て 考 え る 子 ど も た ち が 主 体 的 対 話 的 で 深 い 学 び と は 何 か を 考 え、そ の た め に は 何 が 必 要 か を 考 え ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
9	指 導 案 に つ い て 学 ぶ I (生 徒 観 ・ 評 価 に つ い て 考 え る) 指 導 案 の 生 徒 観 ・ 評 価 に つ い て、基 礎 を 理 解 し ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワー ク 30 分	
10	指 導 案 に つ い て 学 ぶ II (ワークシート・板書計画について) い く つ か の 実 践 例 か ら、ど う い っ た ワークシート・板書計画が有効かを考えます。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キー ワー ド を 調 べ、考 え を ま と め る。			講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワー ク 30 分	
11	指 導 案 に つ い て 学 ぶ III (指 導 案 の 作 成) 前 回 の 指 導 内 容 を ふ ま え、各 自 指 導 案 を 作 成 し て み ま す。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む。 事 後 : 作 成 し た 指 導 案 を 使 い、授 業 を シ ミ ュ レー ト す る。			講 義 10 分 ・ グ ル ー プ ワー ク 80 分	
12	履 修 生 に よ る 模 擬 授 業 I				事 前 : 指 導 案 を 作 成。 事 後 : 模 擬 授 業 の 自 己 評 価 ・ 改 善 点 を ま と め る。			発 表 70 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
13	履 修 生 に よ る 模 擬 授 業 II				事 前 : 指 導 案 を 作 成。 事 後 : 模 擬 授 業 の 自 己 評 価 ・ 改 善 点 を ま と め る。			発 表 70 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
14	履 修 生 に よ る 模 擬 授 業 III				事 前 : 指 導 案 を 作 成。 事 後 : 模 擬 授 業 の 自 己 評 価 ・ 改 善 点 を ま と め る。			発 表 70 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
15	ま と め				事 前 : 授 業 全 体 の ふ り か え り を し て お く。 事 後 : 今 後 の 課 題 を ま と め る。			講 義 30 分 ・ グ ル ー プ ワー ク 30 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎 回、作 成 し た プ リ ン ト を 配 布 し、そ れ に そ つ て 授 業 を す す め て い き ま す。					授 業 中、適 宜 指 示 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、レポ ー ト ・ プレゼンテーション等 (50%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
教 育 実 習 生 と し て、自 分 が 何 を す べ き か、何 が 課 題 か が わ か れ ば、自 分 が す べ き こ と が わ か る と 思 い ま す。									
オ フ ィ ス ア ワー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 社 会 学 (Sociology of Education)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 職 課 程 履 修 生 し か 受 講 で き ま せ ン							
授 業 概 要 :									
この授業では、現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導く姿勢を身につけることを促進していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型授業の実現を目指します。									
授 業 目 標 :									
教育がどのような制度/法律下でこどもの教育に携わるのかを理解し、各自が自らの見識を持てるようにすることを目的としている。具体的には以下の5つを目標とする。①学校教育に与える社会の影響を理解する②制度や法律と学校教育のかかわりについて理解する③学校改善のための取組について理解する④地域と学校の連携の重要性を理解する⑤安心・安全な学校作りへの取組を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に 〇、 重 要 に 〇 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	社会変化と学校 情報化を取り上げながら、社会変化が学校教育にどう影響を与えているかを考えていきます。					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義70分・ ディスカッション20分	
2	家族変化と学校 少子化が子どもの成長・教育に対してどういう影響を与えているかを考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義60分・ ディスカッション30分	
3	公教育の原理について考える 公教育としての学校について、日本の学校の特徴や学校教育における公共性の問題を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義60分・ グループワーク30分	
4	日本の教育制度とは何か 明治以降の教育制度の変遷をたどりながら、制度と教育の関連について考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義70分・ グループワーク20分	
5	諸外国の教育改革と課題を考える 諸外国の教育改革を理解し、その上で日本の教育改革の現状と課題を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義60分・ グループワーク30分	
6	教育政策と教育行政 教育政策や教育行政の原理を理解し、課題と改善策を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義70分・ グループワーク20分	
7	日本国憲法と教育基本法 日本国憲法と教育基本法の関係を理解すると共に、教育基本法がどう改正されたかを考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義80分・ グループワーク10分	
8	学校教育法と関連法規 学校に関連するさまざまな関連法規について理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義60分・ ディスカッション30分	
9	学級経営とは何か 生徒たちが主体的に学習する組織にするために、学級経営の在り方について考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義60分・ グループワーク30分	
10	教育評価と学級経営 学級経営を評価し、次年度以降の改善にどうつなげているのか、その方法を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義60分・ グループワーク30分	
11	評価というシステムーPDCA サイクルを理解するー PDCA サイクルを理解し、自ら実践できるようにします。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義20分・ グループワーク50分・発表 20分	
12	チームとしての学校という視点 中教審答申を中心に、チームとしての学校という視点を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義60分・ グループワーク30分	
13	開かれた学校Ⅰ（地域の教育力の活用）学校・家庭・地域社会の連携の在り方を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義20分・グループディス カッション60分・発表10分	
14	開かれた学校Ⅱ（学校評議委員・学社連携の模索） 地域から信頼できる学校作りのための実践例を学習し、課題について考えます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義20分・グループディス カッション60分・発表10分	
15	開かれた学校と安心・安全な学校作り 「開かれた学校」と生徒にとっての安全な学校作りの兼ね合いは非常に難しい。いくつかの実践例から、課題を考えます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		発表60分・講義30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。					高妻紳次郎『新・教育制度論：教育制度を考える15の視点』ミネルヴァ書房、2014年。その他授業中に適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
社 会 学 的 思 考 を 自 ら 実 践 で き る よ う に な る こ と を 目 的 と し て い ま す。授 業 に は 積 極 的 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育心理学 (Educational Psychology)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	田村 修一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について、心理学的なメカニズムを学ぶことにより、将来、教職に携わる者として必要な発達と学習の支援のあり方について考える。									
授業目標： 1. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程について理解できる。 2. 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 発達とは何か（成熟と学習の違いについて考える）					事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
2	発達段階と発達課題（エリクソンの生涯発達論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
3	運動と言語の発達					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
4	認知の発達（ピアジェの認知発達論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
5	社会性の発達（ボウルヴィの愛着理論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
6	思春期・青年期の発達（アイデンティティの確立）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
7	学習の理論（条件づけと観察学習）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
8	認知と学習（記憶のメカニズム）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義45分・演習45分	
9	学習形態と指導					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
10	動機づけ					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
11	学級のアセスメントと集団づくり（Q-Uの理解と活用）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
12	学習の評価					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
13	発達と教育（これからの教育に必要なことを考える）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義60分・演習30分	
14	発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の理解					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
15	発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の支援					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義90分	
教本： 「学習と発達」内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 弘文堂 2020年					参考文献： 「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013年				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（授業への参加態度、リアクションペーパー・振り返りレポート）40%と定期試験（60%）の総合評価。									
学生へのアドバイス： 「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません、しっかり学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育相談 (Educational Counseling)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	田村 修一								
履 修 条 件	前提科目	「教育心理学」の授業を履修済であること。							
	その他	なし							
授業概要： 本授業では、教職志望者のためのスクール・カウンセリング（①理論、②技法、③アセスメント法）について学ぶ。治療的カウンセリングだけではなく予防・開発的カウンセリングについても学ぶ。そして、生徒理解を深め、効果的な指導・援助ができるように演習を交え体験的に学ぶ。									
授業目標： 学校現場の大きな課題であるいじめ、不登校、学業不振、特別支援教育などの解決のためには、教師がカウンセリング理論や技法を学んでおく必要がある。そこで本授業では、教師に必要なカウンセリング理論、教育相談の基本的技法、生徒理解を深めるための心理アセスメント法の習得を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 学校教育における教育相談の意義					事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
2	学校心理学を基盤とした教育相談の進め方					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
3	カウンセリング理論① 精神分析理論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
4	カウンセリング理論② 認知行動理論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
5	カウンセリング理論③ 人間性心理学（パーソン・センタード（来談者中心）） アプローチ					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
6	カウンセリングの技法① グループアプローチ： 構成的グループ・エンカウンターを活用					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義30分・演習60分	
7	カウンセリングの技法② グループアプローチ： グループワーク・トレーニングを活用					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		演習90分	
8	カウンセリングの技法③ 傾聴トレーニング					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		演習90分	
9	心理教育的アセスメント① 交流分析とエゴグラムの理解と活用					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義60分・演習30分	
10	心理教育的アセスメント② 知能検査（WISC）の理解と活用					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
11	心理教育的アセスメント③ 心理検査（描画法：バウムテスト）の理解と活用					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義60分・演習30分	
12	事例研究① いじめの理解と援助					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
13	事例研究② 不登校の理解と援助					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
14	事例研究③ 発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の理解と特別支援教育					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
15	事例研究④ 保護者の悩みに対する教育相談					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義60分・演習30分	
教本： 「スクールカウンセリングのこれから」石隈利紀・家近早苗 創元社 2021年					参考文献： 「チーム学校力を高めるカウンセリング」水野治久・田村修一 ぎょうせい 2022年				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（リアクションペーパー、振り返りレポート）40%と期末試験（60%）の総合評価。									
学生へのアドバイス： 「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません。しっかり学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 方 法 論 (情 報 通 信 技 術 の 活 用 含 む) (The Method of Education (including use of ICT))							科 目 分 類	教 職 課 程 科 目
担 当 教 員	山 本 美 紀 ・ 鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教育の方法及び技術」及び「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に基づき、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、(1)教育の方法論、(2)教育の技術、(3)情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。具体的には、教育方法の基礎的理論と実践を学び、教育の目的に適した指導技術を身に付けます。さらに、ICT (情報通信技術) を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について考え、児童及び生徒に情報活用能力、情報モラルを育成するための指導法を身に付けます。									
授 業 目 標 :									
①社会的背景の変化やICTの発展における教育方法の理論及び方法を概観し、教育とは何か自分の考えを述べることができる。									
②指導と評価の一体化について理解し、学習意欲を高める授業を企画できる。									
③インストラクショナルデザインの考え方を理解し、ICTを活用した授業設計、学習指導案および教材等を開発できる。									
④ICTを効果的に活用し、模擬授業を行うことができる。									
⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 概 要 と 目 的、進 め 方、評 価 方 法 等 に つ い て 説 明 す る。 教 育 方 法 論 の 歴 史 的 背 景、学 問 の 体 系、方 法 に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		ア イ ス ブ レ イ ク (10 分) 講 義 (80 分)	
2	教 育 の 方 法 と 技 術 に 関 す る 理 論、最 近 の 動 向、統 合 型 公 務 支 援 シ ス テ ム を 含 む ICT を 活 用 し た 事 例 に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : 教 育 ニ ュ ー ス を 調 べ る 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (90 分)	
3	学 力 と カ リ キ ュ ラ ム ・ 教 育 課 程 に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : 学 習 指 導 要 領 の 下 調 べ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (90 分)	
4	イ ン ス ト ラ ク シ ョ ナ ル デ ザ イ ン と ICT の 活 用 (1) メ ー ガ ー の 3 つ の 質 問、到 達 目 標 に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : ID に つ い て 下 調 べ 事 後 : 授 業 企 画 (案) を 検 討		講 義 (70 分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20 分)	
5	イ ン ス ト ラ ク シ ョ ナ ル デ ザ イ ン と ICT の 活 用 (2) 評 価 方 法 と 評 価 基 準 に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : 評 価 に つ い て 下 調 べ 事 後 : 学 習 指 導 案 を 検 討 す る		講 義 (70 分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20 分)	
6	イ ン ス ト ラ ク シ ョ ナ ル デ ザ イ ン と ICT の 活 用 (3) 授 業 方 略 と 課 題 分 析 に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : 学 習 指 導 案 ル ー プ リ ッ ク を 読 む 事 後 : 学 習 指 導 案 の 作 成		講 義 (70 分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20 分)	
7	イ ン ス ト ラ ク シ ョ ナ ル デ ザ イ ン と ICT の 活 用 (4) 教 材 ・ 教 具、板 書 と デ ジ タ ル コ ン テ ン ツ に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : 教 材 と 教 具 の 下 調 べ 事 後 : 教 材 を 検 討 す る		講 義 (60 分) 小 テ ス ト (30 分)	
8	イ ン ス ト ラ ク シ ョ ナ ル デ ザ イ ン と ICT の 活 用 (5) 学 習 指 導 と フ ァ シ リ テ ー シ ョ ン に つ い て 学 ぶ。(山 本)					事 前 : 学 習 指 導 案 の 自 己 評 価 事 後 : 学 習 指 導 案 の 改 善		講 義 (60 分) グ ル ー プ ワ ー ク (30 分)	
9	学 習 環 境 デ ザ イ ン (1) 一 斉 授 業 と ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ に つ い て 学 ぶ。(鈴 木)					事 前 : テ ー マ に つ い て 下 調 べ 事 後 : 教 材 の 作 成		講 義 (60 分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (30 分)	
10	学 習 環 境 デ ザ イ ン (2) オ ン ラ イ ン 授 業 と ハ イ ブ リ ッ ド 授 業 に つ い て 学 ぶ。(鈴 木)					事 前 : テ ー マ に つ い て 下 調 べ 事 後 : 教 材 の 作 成		講 義 (60 分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (30 分)	
11	統 合 型 公 務 支 援 シ ス テ ム を 含 む ICT の 活 用、情 報 教 育 と 情 報 モ ラ ル 教 育 の 指 導 法 に つ い て 学 ぶ。(鈴 木)					事 前 : テ ー マ に つ い て 下 調 べ 事 後 : 模 擬 授 業 の 準 備		講 義 (60 分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (30 分)	
12	教 育 評 価 と 教 育 デ ー タ (学 習 履 歴、ポ ー ト フ ォ リ オ 等) に つ い て 学 ぶ。 (鈴 木)					事 前 : 模 擬 授 業 ル ー プ リ ッ ク を 読 む 事 後 : 模 擬 授 業 の 準 備		講 義 (60 分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (30 分)	
13	ICT の 活 用 と 学 び を 深 め る 授 業 研 究 模 擬 授 業 を 行 う。(山 本 ・ 鈴 木)					事 前 : な し 事 後 : 模 擬 授 業 の 振 り 返 り		模 擬 授 業 (90 分)	
14	ICT の 活 用 と 学 び を 深 め る 授 業 研 究 模 擬 授 業 (続 き) と 模 擬 授 業 の 振 り 返 り を 行 う。(山 本 ・ 鈴 木)					事 前 : な し 事 後 : 模 擬 授 業 の 振 り 返 り		模 擬 授 業 (90 分)	
15	ま と め と 学 び の 振 り 返 り を 行 う。 ICT の 未 来 と 教 育 の 方 法 及 び 技 術 の 展 望 に つ い て 考 え る。(山 本)					事 前 : 学 び の マ ッ プ の 作 成 事 後 : 学 び の 振 り 返 り を 行 う		講 義 (60 分) 振 り 返 り (30 分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指 定 し な い。 必 要 に 応 じ て 授 業 内 で 資 料 等 を 配 布 す る。					文 部 科 学 省 『小 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 告 示)』 文 部 科 学 省 『中 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 告 示)』 文 部 科 学 省 『高 等 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 30 年 告 示)』 そ の 他、必 要 に 応 じ て 授 業 内 で 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ (ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー、レ ポ ー ト 課 題、学 習 指 導 案、振 り 返 り 等) : 60%、小 テ ス ト : 10%、模 擬 授 業 (発 表) : 30% で 総 合 評 価 す る。 ※ 学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ は、ル ー プ リ ッ ク (評 価 基 準) に よ る 自 己 評 価 を 含 む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
こ の 授 業 は、学 生 の 立 場 と 教 師 の 立 場 の 両 面 に 立 っ て 議 論 と 実 践 を 行 い、教 育 と は 何 か、学 習 と は 何 か を 考 え、自 分 の 学 び を 問 う 科 目 で も あ り ま す。ゼ び、自 分 自 身 が 成 長 す る 学 び の 方 法 を 学 ぶ 機 会 に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教師論 (The Study of Teacher)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	山本美紀・大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）」に基づき、現代社会において教職に求められる資質・能力を身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方について学びます。具体的には、(1)教職の社会的意義、(2)教員の役割、(3)教員の職務内容、(4)チーム学校への対応など教職に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。									
授業目標： ①今日の学校教育や教職の社会的意義について、自分の考えを述べるができる。 ②教師像の変遷を概観し、今日の教師に求められる役割や、資質・能力を説明できる。 ③教員の職務と義務を理解し、職務遂行のために何が必要かをディスカッションできる。 ④チーム学校への対応を理解し、家庭・学校・社会との連携の必要性を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。教師を目指すということについて考える。(山本・大沢)					事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー		アイスブレイク(10分) 講義(80分)	
2	教師の仕事とその魅力について学ぶ。(山本)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(70分) シンクペアシェア(20分)	
3	日本の教職の特徴と専門性について学ぶ。(山本)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(70分) シンクペアシェア(20分)	
4	教師像の変遷について学ぶ。(山本)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(70分) シンクペアシェア(20分)	
5	教師の服務と職務上・身分上の義務について学ぶ。(山本)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
6	教員の権利と身分保障について学ぶ。(山本)					事前：テーマについて下調べ 事後：小テストの振り返り		講義(60分) 小テスト(30分)	
7	学び続ける教師と教員研修制度について学ぶ。(山本)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
8	チーム学校とミドルリーダー教師への成長について学ぶ。(大沢)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(90分)	
9	「学びの場」を生み出す教師について学ぶ。(大沢)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(60分) ディスカッション(30分)	
10	〈いのち〉を真ん中に据えた学校づくりについて学ぶ。(大沢)					事前：教育ニュースを調べる 事後：レポート課題		講義(60分) ディスカッション(30分)	
11	いじめに向き合うについて学ぶ。(大沢)					事前：教育ニュースを調べる 事後：レポート課題（最終版）		講義(60分) ディスカッション(30分)	
12	学校・教師のこれからの課題について学ぶ。(大沢)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(60分) ディスカッション(30分)	
13	「教える」ということの意味について学ぶ。(大沢)					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(60分) ディスカッション(30分)	
14	教師に求められる資質・能力と「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿について学ぶ。(大沢)					事前：テーマについて下調べ 事後：学びのマップ作成		講義(60分) グループワーク(30分)	
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。教員採用試験の動向について説明する。(山本)					事前：ポートフォリオの整理 事後：学びの振り返りを行う		講義(40分) 試験(50分)	
教本： 佐久間亜紀・佐伯眸編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房 ISBN：978-4-623-08536-1					参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、レポート課題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、（第15回）試験：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： 「教育は人なり」といわれます。未来の教師像を見据えて、学び続けるという権利と責任を学ぶ機会にしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	教 職 実 践 演 習 (Practical Study for Teaching)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜 ・ 大 沢 裕 ・ 石 上 七 輔 ・ 増 田 裕 彦 ・ 山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 師 に な る 意 欲 の あ る 者							
授 業 概 要 :									
<p>教職課程の仕上げの授業にあたる。大学4年間で学んだことと教職実習での経験を整理・統合し、教員としての資質の向上を図るものである。授業形態としては講義を減らし1討議や発表、現場見学を組み合わせ、実際の教職現場を想定した実践形式での授業を行っていく。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>教師として必要な資質を各自が確認し、実践的な指導力を有する教員としての資質向上に務める。 具体的な目標としては以下の4点である。 ①教師としての使命感や責任感を持ち、子どもに対する愛情が豊かであるか。②教師として必要な社会性や対人関係能力を身につけているか。③生徒理解や学級運営について、必要な基礎的な能力が身につけているか。④教科内容の基礎的な指導力を身につけているか。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	これまでの学習の振り返りについて				事後：ふりかえり、レポートを作成		講義30分・ディスカッション40分・発表20分		
2	学校経営についてI				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
3	学校経営についてII				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
4	教育相談の方法				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義30分・ロールプレイ30分・ディスカッション30分		
5	教職の意義：教員の役割				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
6	児童・生徒とのコミュニケーション				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
7	いじめ理解について				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義50分・ロールプレイ30分・発表10分		
8	子ども理解の方法				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義60分・ディスカッション20分・発表10分		
9	学校現場の見学I（森の里中学校）				事前：それぞれ何に着目するか考えておく		見学90分		
10	学校現場の見学II（森の里中学校）				事後：見学から何を考えたかまとめる		見学60分・ディスカッション30分		
11	模擬授業I				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義20分・模擬授業60分・講義10分		
12	指導力がある教師				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義60分・ディスカッション20分・発表10分		
13	保護者との対応				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ロールプレイ20分・ディスカッション30分		
14	教職の意義・教員の役割				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義50分・ディスカッション20分・発表20分		
15	模擬授業II				事前：指導案を作成 事後：模擬授業の反省をまとめる		講義20分・模擬授業60分・講義10分		
教 本 :					参 考 文 献 :				
大学で準備した教材をもとに授業をすすめる。					必要に応じて授業時間内に紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (10%)、授業内試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠席しないよう希望する。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	公民科教育法 I (Teaching Approach to the Civics I)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 高等学校における公民科教育法の意義と現代社会の政治経済問題について述べるとともに、政治経済の基本論理と現代の経済の目標、教える上での教材の研究、指導方法・計画、授業のポイントなど、評価等を学ぶ。									
授業目標： 国際化、IT 情報化が急速に進展し、世界情勢が激動するなかで、現代社会の政治・経済の役割は益々重要になってきている。そのような状況の下、公民科教育、とりわけ政治経済の授業が実践でき、生徒にしっかり理解させるように資質を養い、必要な知識と教育技術を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現代社会における重要課題—公民の視点から					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
2	学習指導要領の解説：公民の中の政治・経済分野に関する歴史の変遷と今後の展開					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	政治・経済分野の目標と内容の全体的な構造					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	政治分野の内容の指導上の留意点					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	経済分野の内容の指導上の留意点					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	政治・経済分野の学習評価の視点					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	政治・経済分野と関連する学問的領域（政治学、経済学）					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	政治・経済分野の発展的な学習の内容					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	学習指導案の作成：政治・経済分野の学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	政治・経済的分野の教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	模擬授業と振り返り① わが国の政治					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
12	模擬授業と振り返り② 国際政治					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
13	模擬授業と振り返り③ わが国の経済					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
14	模擬授業と振り返り④ 国際経済					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
15	全体のまとめ					事前：指導案作成 事後：指導案修正		講義	
教本： 『高等学校学習指導要領』（最新版） 『詳述 公共』実教出版（最新版）					参考文献： 講義中に適宜指示				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 プレゼンテーション及び質疑応答（30%）、模擬授業（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分の授業スタイルを意識し、教育のあるべき姿を常に考えて欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	公民科教育法Ⅱ (Teaching Approach to the Civics Ⅱ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	公民科教育法Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 高等学校学習指導要領解説公民編をもとに教科・科目の目標や内容について理解する。公教育制度における公民科の役割を念頭に置いた授業を展開できるように理解を深める。また、学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などを学ぶ。模擬授業を通して授業設計の重要性を理解し、学習指導の技能の基礎を学ぶ。									
授業目標： 科目の学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などの実践的な技能の習得をする。 公民科教育における様々な指導方法の実践力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	高等学校公民科の解説：公民科・各科目の目標と内容					事前：学習指導要領を読む 事後：学習指導要領を理解		講義	
2	学習指導要領の解説：公民科教育の歴史的変遷と今後の展望					事前：学習指導要領を読む 事後：学習指導要領を理解		講義	
3	学習指導案の作成：学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：指導書を読む 事後：自ら作成		講義	
4	教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）					事前：関連資料を読む 事後：指導案の作成		講義	
5	評価の方法と考え方					事前：関連資料を読む 事後：理解を深める		講義	
6	模擬授業①（現代社会の特質）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
7	模擬授業②（現代社会における青年）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
8	模擬授業③（自己形成と社会とのかかわり）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
9	模擬授業④（哲学と人間）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
10	模擬授業⑤（宗教と人間）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
11	模擬授業⑥（近代科学の考え方）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
12	模擬授業⑦（人間の尊厳）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
13	模擬授業⑧（人間性の回復を求めて）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
14	模擬授業⑨（日本の伝統思想の考え方）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
15	総括（教材研究の重要性・授業改善の取り組みなどを含む）					事前：関連資料を読む 事後：改善点をまとめる		講義	
教本： 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』 『詳述 公共』実教出版（最新版）					参考文献： 濱井修・小寺聡『現代の倫理』山川出版（最新版） その他は講義中に適宜指示				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、模擬授業・プレゼンテーション等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 「公民」の育成とは何かを常に模索して欲しい。授業を考える際には、どのような意図をもち、どのような授業展開をしていくのかを考えて欲しい。魅力的な授業を展開できるよう情報に敏感になって欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国語科教育法 A (Japanese Language Educational Method A)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 高 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 「国語科学習指導要領」と「国語教育史」を踏まえ、中学・高校の国語科教育の基礎的な理論と学習指導理論を、現行教科書の教材を用いて具体的に検討し、実践力を身につける。									
授 業 目 標 : 「国語科学習指導要領」と「国語教育史」を踏まえ、中学・高校の国語科教育の目的、内容と方法、教材づくりと教材研究学習指導理論を学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	国語教師論 これまでどんな教師に出会ってきたか? どんな教師になりたいか? を話し合い、教師とは何かを考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義60分 話し合い30分	
2	「国語科学習指導要領」の概要 学習指導要領を読み、その法的根拠は何かを考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
3	現代の国語と国語表現に関する目標と内容、全体構造を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
4	現代の国語と国語表現に関する学習内容と学習指導上の留意点を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
5	現代の国語と国語表現に関する学習評価を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
6	現代の国語と国語表現を考える学習評価を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
7	現代の国語と国語表現に関する発展的な学習内容を発想する					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
8	古典の国語の学習の目標と内容を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
9	古典の国語の学習内容と学習指導上の留意点を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
10	古典の国語と学習内容に関する学習評価を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
11	国語とは何か? 柳田國男の国語観を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
12	国語に関する現代の問題を考える (日本語で生きる)					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
13	国語に関する現代の諸問題を考える (グローバル化と日本語と)					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
14	作文教育のあり方を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い	
15	まとめ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「中学校国語科学習指導要領」(最新版) 「高等学校国語科学習指導要領」(最新版)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、コ メ ン ト ・ カ ー ド (20%)、レ ポ ー ト (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 中 学 校 教 科 書 教 材 と プ リ ン ト 教 材 を 使 用 し ま す。教 材 を よ く 読 ん で 毎 回 の テ ー マ を 具 体 的 に 論 じ ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国語科教育法B (Japanese Language Educational Method B)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「国語科学習指導要領」の教科構造にそって、4 領域・1 事項の言語活動の学習指導の在り方を実践事例から学ぶ。 「思考・判断・表現」を重視した言語活動の単元開発の基礎・基本を実践事例から学ぶ。									
授業目標： 中学・高等学校の国語科の教育目標と教科内容を理解し、「学習指導要綱」の教科構造に沿い、言語と4 領域の言語活動についての学習指導のあり方を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	講義ガイダンス 国語科の授業のあり方を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義60分 話し合い30分	
2	国語科学習指導案の構想と指導案を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
3	「読むこと－説明文・評論文」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
4	「読むこと－文学的文章」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
5	「読むこと－古典」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
6	「書くこと－レポート」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
7	「書くこと－創作文」の指導を短歌創作で実践する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
8	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導をことば遊びの教材で実践する①					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
9	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導をことば遊びの教材で実践する②					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
10	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する①					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
11	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する②					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
12	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する③					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
13	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する④					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
14	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する⑤					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い	
教本： 「中学校国語科学習指導要領」（最新版） 「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、コメント・カード（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 中学校教科書教材とプリント教材を使用します。教材をよく読んで毎回のテーマを具体的に論じましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	国語科教育法C (Japanese Language Educational Method C)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	国語学・国文学関連の科目、国語科教育法A・B							
	その他	教職課程履修者(上記科目を履修していなくても履修できます)							
授業概要：									
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校／高等学校学習指導要領国語科の〈内容〉のうち、 〔知識及び技能〕〔1〕言葉の特徴や使い方に関する事項〕〔2〕情報の扱い方に関する事項〕と、それに関連する 〔思考力、判断力、表現力等〕〔A 話すこと・聞くこと〕〔B 書くこと〕〔C 読むこと〕の教材を確認し、指導のための分析を行う。 ・指導案を書き、模擬授業を行って改善点を話し合う。(他の国語科教育法との関係で、扱う範囲を変更することもある。) 									
授業目標：									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材の内容を把握し、指導のポイントを考えることができる。 2. 授業目標を設定して基本的／効果的な指導案が書ける。問題を予見して対策を講じることができる。 3. 模擬的な教授活動を円滑に行うことができる。 									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション 学習指導要領の内容が、どう教科書に落とし込まれているかを見る。					事前：学習指導要領の準備 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
2	学習指導要領との対応を考慮に入れた指導案の書き方を学ぶ。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
3	学習評価(国語)について学ぶ。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
4	〔指導計画の作成と内容の取扱い〕(学習指導要領・同解説)を確認し、模擬的に教える教材を選ぶ(文法)。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
5	指導書の読み込み、教材分析をする。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 個人/ペアワーク 60分	
6	指導の展開例を見る。学習指導案を作成する。					事前：配付資料を読む 事後：指導案を完成させる		講義 30分 個人/ペアワーク 60分	
7	学習指導案の検討会と補助教材の準備をする。					事前：指導案説明の準備 事後：模擬授業用教材の準備		講義 30分 個人/ペアワーク 60分	
8	模擬授業、反省会1-① 前半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
9	模擬授業、反省会1-② 後半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
10	〔指導計画の作成と内容の取扱い〕(学習指導要領・同解説)を確認し、模擬的に教える教材を選ぶ(語彙・情報)。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
11	指導書の読み込み、教材分析をする。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
12	指導の展開例を見る。学習指導案を作成する(語彙・情報)。					事前：配付資料を読む 事後：指導案を完成させる		講義 40分 個人/ペアワーク 50分	
13	学習指導案の検討会と補助教材の準備をする。					事前：指導案説明の準備 事後：模擬授業用教材の準備		講義 40分 個人/ペアワーク 50分	
14	模擬授業、反省会2-① 前半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
15	模擬授業、反省会2-② 後半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
教本： 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」文部科学省 ¥318 中学校教科書『国語1～3』光村図書出版 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」文部科学省 ¥638 高等学校教科書『現代の国語』『言語文化』(出版社は授業で伝えます。)									
参考文献： 参考資料：									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(30%)、コメント・カード(20%)、レポート(50%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 中学校教科書教材とプリント教材を使用します。教材をよく読んで毎回のテーマを具体的に論じましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国語科教育法D (Japanese Language Educational Method D)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 中学校・高等学校教科書の古典教材の講読の授業である。古典講読を通して言語文化、古語、古典文法、敬語法を学ぶ。さらに情報機器及び学習資料の効果的な活用法を身につける。									
授業目標： ・教科書掲載の代表的古典教材を購読し、発展単元を学習指導に位置づける。古典講読を通して日本の言語文化、古語、古典文法、敬語法の理解を深める。 ・教育実習に向けて、指導案作成、授業研究により実践力を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス。言語文化と文学国語に関する目標と内容、全体構造を知る					事前：なし 事後：配布資料を読む		講義	
2	言語文化と文学国語に関する学習内容の指導上の留意点を学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
3	言語文化と文学国語に関する学習評価のあり方について学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
4	言語文化と文学国語を支える学問領域（文学、言語学、歴史学）と教材（情報機器の活用）を学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
5	言語文化と文学国語に関する発展的な学習内容に向けて考える					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
6	『竹取物語』冒頭 音読と解釈、文法（動詞）について学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
7	『竹取物語』末尾 音読と解釈、文法（形容詞その他）について学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
8	『竹取物語』冒頭及び末尾の学習指導案の作成の仕方を学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
9	『伊勢物語』冒頭 音読と解釈、文法について学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
10	『伊勢物語』冒頭の学習指導案の作成の仕方を学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
11	『今昔物語』（絵仏師良秀）音読と解釈、文法について学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
12	『今昔物語』（絵仏師良秀）の学習指導案の作成の仕方を学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
13	漢文・漢詩の音読と解釈、訓読法（返り点その他）について学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
14	漢文・漢詩の学習指導案の作成の仕方を学ぶ					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
15	まとめ					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		講義・演習	
教本： 「中学校国語科学習指導要領」（最新版） 「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、ノート提出（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回必ず予習、復習をしてください。ノート提出があります。指導案の作成・模擬授業も行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会科教育法 I (Teaching Approach to the Social Studies I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	増 田 裕 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : テキストをもとに社会科と教育の主な理論と中学校社会科の目標・内容 (中学校学習指導要領)、授業づくりなどの基礎を学ぶ。									
授 業 目 標 : 中学校社会科についての基礎理論と授業づくりの基礎、および現行中学校学習指導要領における中学校社会科の目標・内容、教科指導の在り方などについて理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	社会科教育とは。実践知としての社会科 I 社会教育の理論について考える・社会科の思想的、歴史的基盤を探る。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	社会科の理論について ①育てる人間像とは ②社会科と歴史科・地理科・公民科との違い ③社会科の起源 ④日本の社会科の始まり					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	社会科の方法原理を探る ①「問題解決」の方法に基づく社会科 ②「理解」 ③「説明」 ④「議論」					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	社会科の学力と評価の理論を探る(1) ①基礎、基本とは一学力をめぐる紛争― ②21世紀型能力とは一コンピテンシー―					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	社会科の学力と評価の理論を探る(2) ③目標に準拠した評価とは一到達度評価― ④観点別評価とは社会科の方法原理を探る					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	社会科の授業づくりの理論を探る(1) ①授業デザイン ②学習指導案のかたち					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	社会科の授業づくりの理論を探る(2) ③教材研究の視点と方法 ④授業研究―授業のPDCA―					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	社会科の学習指導の方法を探る(1) ①アクティブ・ラーニングの活用 ②教科書の活用					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	社会科の学習指導の方法を探る(2) ③ICTの活用 ④野外観察、地域調査1					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	II 社会教育の実践について考える 評価の高い実践に学ぶ(1) ①長岡文雄 ②有田和正					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	評価の高い実践に学ぶ(2) ③河原和之 ④加藤公明					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	現行小学校の実践に学ぶ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	現行中学校の実践に学ぶ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	学習指導案について					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教 本 : 『社会科教育のルネサンス―実践知を求めて―』原田智仁編著 教育情報出版 ¥2,497									
参 考 文 献 : 文部科学省著『中学校学習指導要領』(最新版) 文部科学省著『中学校学習指導要領解説社会編』(最新版)									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社 会 科 教 育 法 Ⅱ (Teaching Approach to the Social Studies Ⅱ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	増 田 裕 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	『社会科教育法Ⅰ』を修得済みであること							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 現在の日本の社会科教育について、学習指導要領社会科解説(最新)をテキストにして、地理的分野、歴史的分野、公民的分野それぞれの目標や内容を学びます。									
授 業 目 標 : 学習指導要領社会科の目標や内容について把握し、教員になるためのスキルを向上することが目標です。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	中学校学習指導要領について ①改訂の経緯及び基本方針 ②社会科総説					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	教科の目標及び内容					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	中学校学習指導要領地理的分野(1) A 世界と日本の地域構成 B 世界の様々な地域 C 日本の様々な地域					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	中学校学習指導要領地理的分野(2) 内容の取扱い A～Cの内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	中学校学習指導要領地理的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	中学校学習指導要領歴史的分野(1) A 歴史との対話 B 近世までの日本とアジア C 近現代の日本と世界					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	中学校学習指導要領歴史的分野(2) 内容の取扱い A～Cの内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	中学校学習指導要領歴史的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	中学校学習指導要領公民的分野(1) A 私たちと現代社会 B 私たちと経済 C 私たちと政治 D 私たちと国際社会の諸課題					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	中学校学習指導要領公民的分野(2) 内容の取扱い A～Dの内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	中学校学習指導要領公民的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	指導計画の作成と内容の取扱い(1) 指導計画を作成する上の注意点					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	内容の取扱いと指導計画のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	模擬 学習指導案の作成(1)					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	模擬 学習指導案の作成(2) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教 本 : 文部科学省著『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省著『社会編 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』									
参 考 文 献 :									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 (Introduction to Sociology)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会学では、社会学のベーシックな考え方を身につけることを目的としています。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか(社会化) ③社会的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会的想像力／社会的思考を身につけることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義 70分・発表 20分	
2	「社会的存在としての自己」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的存在としての自己について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
3	「社会的想像力」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的想像力について、考え、ディスカッションを通じてその重要性を理解してもらいます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
4	文化と社会 ブルデューの『ディスタンクシオン』を中心に階層について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
5	「社会化」とは何か 社会の中でわれわれがどう育まれるかについて「社会化」という視点から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
6	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーの視点からより具体的に考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
7	家族における社会化 家族がどう変化し、なぜそういった変化が生じたか・どういった影響があるかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
8	学校における社会化 近年の教育問題は学校を取り巻く環境の変化が影響をしています。社会変化と学校の関係性を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
9	ヒドゥンカリキュラムから考える ヒドゥンカリキュラムから、学校で実際に何が伝達されているのか考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
10	情報化社会の中の私 情報化社会の影響の大きさについて、子どもの影響から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
11	社会学史Ⅰ 古典ともいえる社会学者「コント」「デュルケイム」「ウェーバー」を中心に社会学がどう発展してきたのかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
12	社会学史Ⅱ 「機能主義」「コンフリクトの社会学」「シンボリックインタラクショニズム」といった社会学理論を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
13	社会学の手法Ⅰ 質的調査の特徴を理解し、どう活用すればいいか考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
14	社会学の手法Ⅱ 量的調査について、各種調査データの読み取り方・活用の仕方等を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
15	まとめ					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	

<p>教本： なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。</p>	<p>参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ￥3,888 その他授業中に適宜紹介します。</p>
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。</p>	
<p>学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考力を身につけ、自分の考えを人に伝えるスキルを身につけることです。独学では難しいので、積極的に授業に参加し、一緒に考えていきましょう。</p>	
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 科 教 育 法 I (Educational Methods for Information Studies I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この授業は、(1)学習指導要領(平成30年告示)に示された教科「情報」における教育目標と教科内容を理解する。(2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的とします。									
授 業 目 標 :									
①情報教育の背景と目的について説明できる。									
②学習指導要領における情報科の構成と目標及び主な内容について説明できる。									
③実践事例の検討を通して、情報通信技術の効果的な活用法と授業設計、教材研究について理解を深め、考察できる。									
④学習指導と学習評価の考え方について説明できる。⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 概 要 と 目 的、進 め 方、評 価 方 法 等 に つ い て 説 明 す る。 情 報 教 育 の 背 景 と 目 的 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		ア イ ス プ レ イ ク (10分) 講 義 (80分)	
2	小 学 校 に お け る 情 報 教 育 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 動 画 (文 科 省) で 学 ぶ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (75分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (15分)	
3	中 学 校 に お け る 情 報 教 育 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 動 画 (文 科 省) で 学 ぶ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (75分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (15分)	
4	情 報 科 教 育 の 体 系 と 構 成 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 学 習 指 導 要 領 の 下 調 べ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (90分)	
5	高 等 学 校 に お け る 情 報 教 育 「情 報 I」及 び 「情 報 II」に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 学 習 指 導 要 領 の 下 調 べ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (75分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (15分)	
6	情 報 社 会 の 問 題 解 決 と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : 小 テ ス ト の 振 り 返 り		講 義 (60分) 小 テ ス ト (30分)	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン と 情 報 デ ザ イ ン と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : ワ ー ク シ ー ト の 作 成		講 義 (70分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20分)	
8	コ ン ピ ュ ー タ と プ ロ グ ラ ム ィ ン グ と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : ワ ー ク シ ー ト の 作 成		講 義 (70分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20分)	
9	情 報 通 信 ネ ッ ト ワ ー ク と デ ー タ の 活 用 と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : ワ ー ク シ ー ト の 作 成		講 義 (70分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20分)	
10	専 門 教 科 情 報 科 (共 通 的 分 野) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 制 作		講 義 (90分)	
11	専 門 教 科 情 報 科 (情 報 シ ス テ ム 分 野) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 制 作		講 義 (90分)	
12	専 門 教 科 情 報 科 (コ ン テ ン ツ 分 野) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 制 作		講 義 (90分)	
13	専 門 教 科 情 報 科 (総 合 科 目) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 改 善		講 義 (90分)	
14	学 習 指 導 と 学 習 評 価 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : 学 び の マ ッ プ 作 成		講 義 (60分) 振 り 返 り (30分)	
15	授 業 の ま と め と 学 び の 振 り 返 り を 行 う。 情 報 科 教 育 法 II に つ い て 説 明 す る。					事 前 : ポ ー ト フ ォ リ オ を 整 理 事 後 : 学 び の 振 り 返 り を 行 う		講 義 (60分) グ ル ー プ ワ ー ク (30分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
鹿 野 利 春 ・ 高 橋 参 吉 ・ 西 野 和 典 編 著 『こ れ か ら の 情 報 科 教 育 情 報 科 教 育 法』 実 教 出 版 ISBN : 978-4-407-35521-5					文 部 科 学 省 『高 等 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 30 年 告 示) 解 説 情 報 編』 ISBN : 978-4304021633 そ の 他、必 要 に 応 じ て 授 業 内 で 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ (ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー、ワ ー ク シ ー ト、振 り 返 り 等) : 60%、小 テ ス ト : 10%、コ ン テ ン ツ の 制 作 (発 表) : 30% で 総 合 評 価 す る。 ※ 学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ は、ル ー ブ リ ッ ク (評 価 基 準) に よ る 自 己 評 価 を 含 む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
こ の 授 業 は、な ぜ、小 中 高 の 情 報 教 育 に お い て プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 教 育 を 行 う の か、プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 的 思 考 と は 何 か を 学 ぶ 科 目 で も あ り ま す。ま た、高 度 情 報 化 社 会 に お い て 求 め ら れ る 生 き る 力 に つ い て 考 え ま す。ぜ ひ、最 近 の 情 報 教 育 の 動 向 を 知 る 機 会 に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 科 教 育 法 Ⅱ (Educational Methods for Information Studies Ⅱ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この授業は、情報科教育法Ⅰを踏まえて、情報科教育の内容や方法の理解を深めることを目的とします。具体的には、情報技術の効果的な活用法を理解し、授業設計と学習指導案の作成を体験するとともに、模擬授業を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付けます。									
授 業 目 標 :									
①学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。									
②情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。									
③模擬授業を計画し、実施することができる。									
④模擬授業の振り返りを通して、授業改善案を提案することができる。									
⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 学習指導要領と最近の情報教育の動向について学ぶ。					事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー		アイスブレイク(10分) 講義(80分)	
2	学習指導のデザインについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(75分) ディスカッション(15分)	
3	学習評価のデザインについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(75分) ディスカッション(15分)	
4	指導と評価の計画について学ぶ。					事前：学習指導要領の下調べ 事後：模擬授業を計画する		講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)	
5	学習指導案について学ぶ。					事前：学習指導要領の下調べ 事後：学習指導案の作成		講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)	
6	情報社会の進展と情報技術と実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：小テストの振り返り		講義(60分) 小テスト(30分)	
7	コミュニケーションとコンテンツと実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：学習指導案の改善		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
8	情報とデータサイエンスと実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：教材の作成		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
9	情報システムとプログラミングと実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：教材の作成		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
10	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：模擬授業の準備		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
11	模擬授業(1)の実施、授業研究(評価と授業改善)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		模擬授業(90分)	
12	模擬授業(2)の実施、授業研究(授業設計と教材研究)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		模擬授業(90分)	
13	模擬授業(3)の実施、授業研究(ファシリテーション)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		模擬授業(90分)	
14	模擬授業(4)の実施、授業研究(振り返り)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：学びのマップ作成		模擬授業(60分) 振り返り(30分)	
15	授業のまとめと学びの振り返りを行う。 これからの情報教育の展望について考える。					事前：ポートフォリオを整理 事後：学びの振り返りを行う		講義(60分) グループワーク(30分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
鹿野利春・高橋参吉・西野和典編著『これからの情報科教育 情報科教育法』実教出版 ISBN : 978-4-407-35521-5					文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』ISBN : 978-4304021633				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
学習ポートフォリオ(ミニッツペーパー、学習指導案、教材、振り返り等) : 60%、小テスト : 10%、模擬授業(発表) : 30%で総合評価する。※学習ポートフォリオは、ルーブリック(評価基準)による自己評価を含む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
この授業を受講する学生は、教育実習に向けて、学習指導案の作成、教材の作成、模擬授業の実践を通して、具体的な授業場面に体験します。ぜひ、情熱をもって参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学概論 I (General Psychology I)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>心理学概論 I では主に個人の行動の発生の仕組みを考え、人がある行動を起こす際にどのような心の働きが生じているのか、という点を中心に学びを進める。授業内容としては、感覚に始まり、錯視を伴う知覚、また我々が見ている世界を意味づける際に必要となる記憶の働きを認知心理学の視点から考える。加えて性格・パーソナリティや動機づけ、及びリーダーシップなど、人間理解に必要な基礎的な心理学的知識を学び、理解する。</p> <p>授業目標：</p> <p>主に教職を目指す履修生が児童・生徒やその保護者への人間理解を深めると共に、教育現場において適切に対処することが出来ることを本授業の到達目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。				事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認			講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	現代心理学の誕生から現在までの発達・変遷の歴史を通じ、心理学の全体像を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
3	履修生が興味を持つ「性格やパーソナリティ」を取り上げ、それらの内容を理解すると共に、自己評価法と他者評価法を学び、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、実習 30分、 PBL 20分	
4	物理的な世界と我々が見ている世界との間に生じる差異について、認知心理学の視点から学び、大脳で行われている内部情報処理過程の働きと行動との関係を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
5	外界から得られる様々な刺激と、これを受容する感覚器の働きを学び、感覚情報の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
6	錯視図形や多義図形を通じ、知覚体制の意味を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
7	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、知覚の働きを理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
8	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 30分、実験 40分、 PBL 20分	
9	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組み等を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
10	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
11	リーダーシップに係る知見を概観すると共に、リーダーシップと生産性との関係を始めて数量的に明らかにしたレヴィンらの研究成果を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
12	リーダーシップに関する代表的な学説である PM 理論とマネジリアルグリッド理論の主張する内容を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、安全管理対策の重要性を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る				事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、 ディスカッション 20分	

教本： 授業内で指示	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	生 徒 ・ 進 路 指 導 論 (Educational and Career Guidance)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	田 村 修 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	教 育 心 理 学 を 履 修 済 の こ と。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>生徒指導と進路指導は、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決や、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本授業では、学校心理学の視点から中学生・高校生を対象とした生徒指導・進路指導について考える。具体的には、現在の中学生・高校生の実態および発達上の課題を理解し、生徒指導提議に基づく生徒指導の望ましいあり方（生徒指導モデル）と具体的な生徒指導課題に対する理解と指導・援助の基礎を学ぶ。さらに、進路指導の基礎理論およびキャリア教育の概要を理解し、具体的な進路指導の進め方について、事例を交えて考える。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の中学生・高校生の発達上の課題を理解できる。 2. 学校心理学を基盤とした生徒指導提議の「2軸3類4層構造」の生徒指導・進路指導の進め方の概要を理解できる。 3. 教員のチームによる生徒指導・進路指導の有効性と課題を理解できる。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価方法の説明) 学校教育における生徒指導の意義					事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
2	現代の中学生・高校生の発達課題と教育課題					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
3	2軸3類4層構造の生徒指導					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
4	チーム学校による生徒指導体制の構築					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
5	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義60分・演習30分	
6	発達支持的生徒指導：学級経営の工夫					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
7	課題予防的生徒指導：様々な教育プログラムの工夫					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		演習90分	
8	困難課題対応的生徒指導① いじめの理解と対応					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
9	困難課題対応的生徒指導② 不登校の理解と対応					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
10	困難課題対応的生徒指導③ 発達障害の理解と支援					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
11	進路指導の歴史と基礎理論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
12	キャリア教育概論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義90分	
13	基礎的汎用能力の育成					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		演習90分	
14	個に応じた進路指導とキャリア・カウンセリング					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義45分・演習45分	
15	事例研究：キャリア教育の先進校の取り組みに学ぶ					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義15分・演習75分	
<p>教本： 「生徒指導提議」コンパクト版 文部科学省 ジアース教育新社 2023年 「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013年</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準： 平常点（授業への参加態度、リアクションペーパー、振り返りレポート）40%と期末試験60%の総合評価。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 「学校現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません。しっかり学びましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学概論 I (Introduction to Politics I)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。ただ、ともにうまくやっていくための「政治」は時として我々の生活に暴力的な形で介入することもあります。一体、政治とはなんなのか、これを問い続けているのが「政治学」です。この授業では、政治学の基礎的な知識や考え方を習得することを通じて、自分の周りの「政治」を改めて認識・理解する視点を提供します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. 政治の「当事者」としての冷静かつ批判的な態度を養う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要とともに、「政治」と向き合うこととはどのようなことかをお話します。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	「政治」とは何か：「政治」、「権力」などと共に政治学はどのような学問かを説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	国家：国家の成り立ちと類型など基本知識を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	政治体制：政治体制において、デモクラシーの成立と展開の背景をお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	政治制度と政治過程：政治過程とは何か、政治を見渡す際の視点を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	公共政策：政策が作られる過程がどのようなものであり、どのような視点から分析されてきたかを学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テスト復習		テスト、フィードバック	
8	議会：政治過程での議会と行政府との関係を中心にお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	政党：政党とは何か、その役割、類型などとともに政党と他の集団との違いを整理します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	利益団体：政治過程における利益団体の概要と意義を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	選挙制度：政治参加の形はどのようなものか、その1つである「選挙」の概要をお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	投票：人々は何を基準にして投票するのか、投票行動の代表的なモデルなどを紹介します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	マスメディア：マスメディアの役割について主なモデルを説明しながら、人々の意識にどのように影響を及ぼすか考えます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	国際関係：国際関係のなかでどのように「秩序」の維持が模索されてきたか、「国際関係」論の展開をお話しし、理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
<p>教本：</p> <p>特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。</p>					<p>参考文献：</p> <p>久米、川出、古城、田中、真渥著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年）、¥3,400、を推薦します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>近年の新型コロナ感染拡大によって、「政治」は我々の生活に大きな影響を及ぼしました。この授業は政治の身近さを学ぶ政治学の導入編ですので、興味があればぜひ受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学概論Ⅱ (Introduction to Politics II)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。そして政治を専門とする「国家」が誕生して以来、各国における「政治」は多様な形を見せています。例えば、我が国にも多大な影響を及ぼすアメリカは、日本と同様に「自由民主主義」の政治の在り方を採用している一方で、人々による政治の進め方は日本とかなり異なるものとなっています。そこで、この授業では、現代アメリカ政治について、大統領の政権運営を、大統領を支持するアメリカ有権者の多様な背景を考えることを通じて、アメリカ政治の現状への理解を深める知識、並びに視点を提供します。									
授業目標： 1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. アメリカの政治を理解することを通じて、我が国の政治に対する相対的な視点と能動的な態度を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要とともに、我々は「アメリカ」をどのように理解しているか、についてお話しします。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	アメリカの政治体制①：アメリカの統治のルールを定める連邦憲法についてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	アメリカの政治体制②：連邦制と厳格な三権分立の役割を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	アメリカの大統領：アメリカの大統領制と、大統領が持つ権限についてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	アメリカの外交・安全保障政策：アメリカ外交政策の伝統と近年の特徴、並びに軍事・安全保障政策についてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	アメリカの政治思想：政治に大きな影響を及ぼす「保守」と「リベラル」の思想の内容と、その歴史的展開を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テスト復習		テスト、フィードバック	
8	G・W・ブッシュ大統領：ブッシュ大統領の家庭環境、職業経験、政治経歴をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	ブッシュ大統領の政権運営：ブッシュ政権が直面した政治課題と問題点を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	バラク・H・オバマ大統領：オバマ大統領の家庭環境、職業経験、政治経歴を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	オバマ大統領の政権運営：オバマ政権が直面した政治課題と問題点を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	アメリカのファーストレディ：歴代の大統領夫人たちの政治的役割を理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	ドナルド・J・トランプ大統領：トランプ大統領の家庭環境、職業経歴などをお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	トランプ大統領の政権運営：トランプ大統領が直面した政治課題と問題点を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： 特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。					参考文献： 藤本一美『現代米国政治分析—オバマ政権の課題』（学文社、2013）を挙げさせていただきます。その他の文献は授業で紹介いたします。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日々のニュースの中でアメリカに関する情報を日にしない日は、ほぼ無いと言えます。そのようなアメリカに関する「情報の氾濫」は、時としてアメリカへの誤解を生むことにも繋がります。そういった誤解を正す知識、視点を身に付けたい学生、またアメリカに興味がある学生は、ぜひ受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	総合的な学習の時間の指導法 (Teaching Method for Integrated Studies)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	増田 裕彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 総合的な学習の時間について、『総合的な学習の時間の学習指導要領 解説』をもとに、基本的な意義や目標、主な内容を押さえ、学校内外の組織的取組について理解できるようにします。また、確認のため課題を出します。									
授業目標： 総合的な学習の時間は、これからの社会において特に必要とされている諸能力を育てる科目です。具体的には、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 総合的な学習の時間について、今までの経験をレポートに作成します					事前：なし 事後：なし		講義 レポート作成	
2	第2章 総合的な学習の時間の目標 学習指導要領にみる3つの目標を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
3	第3章 各学校で定める目標及び内容 学習指導要領にみる7つの配慮すべきことを確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
4	第4章 指導計画の作成と内容の取扱いについて(1) 指導計画の作成に当たっての配慮すべき事項を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
5	第4章 指導計画の作成と内容の取扱いについて(2) 内容の取扱いについての配慮すべき事項を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
6	第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成(1) 指導計画及び各学校において定める目標を確認します					事前：なし 事後：なし		講義90分	
7	第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成(2) 各学校において定める内容と全体計画を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
8	第6章 総合的な時間の年間指導計画及び単元計画の作成(1) 年間指導計画及び単元計画の基本的な考え方を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
9	第6章 総合的な時間の年間指導計画及び単元計画の作成(2) 年間指導計画・単元計画の運用について確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
10	第7章 総合的な学習の時間の学習指導(1) 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」					事前：なし 事後：なし		講義90分	
11	第7章 総合的な学習の時間の学習指導(2) 探究的な学習の指導のポイントを押えます。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
12	第8章 総合的な学習の時間の評価 学習、学習状況、教育課程の評価について確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
13	第9章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(1) 学習指導や校内組織の整備について基本的な考え方を理解します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
14	第9章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(2) 年間授業時数や弾力的な授業時数の運用、環境整備について					事前：なし 事後：なし		講義90分	
15	第9章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(3) 外部との連携の構築について確認します。まとめ					事前：なし 事後：なし		講義90分	
教本： 文部科学省『総合的な学習編 学習指導要領(平成29年告示)中学校 解説』 『学習指導要領(平成29年告示)第5章総合的な学習の時間特別活動編』									
参考文献： 									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教本をもとに進めますが、途中で課題を出します。レポート提出も大切な評価になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学概論 I (Geography I)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地理学は系統地理学と地誌学に分かれ、系統地理学は自然地理学と人文地理学に細分化する。本授業では、系統地理学の観点から自然と人間との関わり合いと、現代世界の生活文化、地域問題の現状について学ぶ。									
授業目標： 空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
2	地理学とは 地理学の目的と課題					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
3	地理情報と表現方法					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
4	地図の概要と地形図の読図					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
5	地球の姿と成り立ち					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
6	世界の地形① 地球規模の大地形					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
7	世界の地形② 河川と海岸の小地形					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
8	世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
9	ハザードマップ概要					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
10	わがまちのハザードマップ調査					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
11	洪水ハザードマップと日常生活、自然災害					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
12	資源と産業—工業の立地変化					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
13	世界の人口—世界の人口問題					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
14	生活文化・民俗地理—世界の食肉文化・生活と環境					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
15	まとめ					事前：前回のノートを整理 事後：地域理解ができたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学概論Ⅱ (Geography Ⅱ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	地理学概論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 地理学は地誌学と系統地理学とに大別される。日本や世界はどのような地域から成り立っているのか、そしてそれぞれの地域はどのような特色をもっているかなどの地域差を理解するために、自然的要素や人文・社会的要素を広く紹介する。									
授業目標： 受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指す。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：講義で扱う地域確認 事後：ノート整理		講義 90分	
2	地誌学とは 地誌学の目的とアプローチ					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義 90分	
3	地誌学と国際理解教育 アジアにおける地誌教育					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義 90分	
4	身近な事例 原宿：歴史と若者の街					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義 90分	
5	近隣諸国の中国事例① 中国の多民族と文化の多様性					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90分	
6	近隣諸国の中国事例② 中国の都市化と課題					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90分	
7	世界遺産 DVD鑑賞					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90分	
8	地域差① 北京の歴史と文化					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90分	
9	地域差② 上海の歴史と文化					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90分	
10	地域差③ 自然環境と歴史からうまれた北京人と上海人の省民性					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90分	
11	近隣諸国の韓国事例① 韓国の自然環境と文化					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90分	
12	近隣諸国の韓国事例② 産業と暮らし					事後：前回のノート整理 事前：発表準備		講義 90分	
13	受講者による発表① 身近な地域を調べよう					事後：地域確認 事前：発表準備		講義 90分	
14	受講者による発表② 身近な地域を調べよう					事後：地域確認 事前：発表準備		講義 90分	
15	まとめ					事前：テスト準備 事後：探求心は身に付いたか		講義 90分	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学Ⅰ (Philosophy Ⅰ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	「哲学Ⅱ」を次学期以降に必ず履修すること。							
<p>授業概要：</p> <p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>講義「哲学Ⅰ」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
2	【古代哲学】存在・「ある」とはということか： ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
3	生成「ある」と「なる」： エレア学派とヘラクレイトスの相違を明らかにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
5	多元論・原子論に関する理解を促す。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
9	アリストテレス形而上学①について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
10	アリストテレス形而上学②について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
11	【中世哲学】信仰と知は両立するか： 中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
13	普遍が先か個物が先か：〈普遍論争〉について詳述する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：試験の準備をする。		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>なし。毎講義時にレジメ（プリント）を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するものは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>木曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学Ⅱ (Philosophy Ⅱ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	「哲学Ⅰ」の単位を修得済みであること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即してトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>講義「哲学Ⅱ」では、近世・近代以降の哲学に焦点を据え、〈認識論〉の確立過程とその特徴について詳述する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	【近世・近代哲学】〈存在論〉から〈認識論〉へ					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
2	大陸合理論における精神・物体・神 デカルト① 「我思う、ゆえに我あり。」					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
3	デカルト② 物体の〈延長〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
4	イギリス経験論による事物認識 ホブズにおける〈コナトゥス〉概念					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
5	ロック① 〈タブラ・ラサ〉からの出発					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
6	ロック② 〈真知〉の限界と意義					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
7	バークリ「存在とは、知覚されてある、ということである。」					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
8	ヒューム「知覚の束」					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
9	【批判哲学とドイツ観念論】 カント『純粹理性批判』①〈コペルニクス的転回〉とは					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
10	カント『純粹理性批判』② 時間・空間は〈直観の形式〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
11	カント『純粹理性批判』③悟性の〈カテゴリー〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
12	カント『実践理性批判』における要請：〈定言命法〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
13	ヘーゲル『精神現象学』の視座① 存在と認識の一致					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
14	ヘーゲル『精神現象学』の視座② 哲学〈史〉の意味					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
15	ヘーゲルの共同体論：〈真無限〉・〈具体的普遍〉					事前：レジメを熟読する。 事後：試験の準備をする。		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>なし。毎講義時にレジメ（プリント）を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するものは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>木曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	道 徳 教 育 指 導 法 (Methodology of Moral Educaion)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 職 課 程 履 修 生 し か 受 講 で き ま せ ン							
授 業 概 要 :									
講 義 の 前 半 は、道 徳 教 育 の 歴 史 や 学 校 教 育 に お け る 道 徳 の 在 り 方 等、道 徳 の 基 礎 的 な 知 識 を 学 習 す る。後 半 で は、自 ら が 考 え た 道 徳 的 課 題 に 即 して 授 業 を 計 画 し、模 擬 授 業 を 行 う こ と で 実 践 的 な 力 を 育 成 し て い け る。									
授 業 目 標 :									
道 徳 と は 何 か を 理 解 し、学 校 教 育 の 中 で の 生 徒 の 同 特 定 の 育 成 を 如 何 に 取 り 組 ん で い け る か を 主 体 的 に 考 え ら れ る こ と が で き る。下 位 目 標 と し て 以 下 の 四 点 が あ る。①現 代 中 学 生 の 道 徳 の 現 状 を 確 認 し、学 校 教 育 の 中 で 道 徳 教 育 が 如 何 に 実 践 さ れ て い る か を 学 習 す る。②道 徳 の 課 題 に つ い て、今 日 の 課 題 だ け で な く 歴 史 的 な 視 点 を も っ て 理 解 で き る。③道 徳 を 指 導 す る 際 の 教 材 の 特 性 を 理 解 し、そ れ を 理 解 し た 授 業 が 計 画 で き る、指 導 案 作 成 と 模 擬 授 業 を 通 じ て 実 践 的 な 指 導 力 を 身 に つ け ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	道 徳 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 次 回 の 配 布 資 料 を 読 む		講 義 70 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
2	子 童 の 道 徳 性 の 発 達 - コ ー ル バ ー グ を 中 心 に - コ ー ル バ ー グ の 理 論 を 中 心 に、道 徳 性 が 如 何 に 発 達 し て い け る か を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
3	社 会 変 化 と 道 徳 社 会 変 化 に 伴 い、道 徳 に 関 し て ど の よ う な 影 響 が あ る か を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
4	情 報 化 社 会 と 道 徳 SNS を つ か っ た い じ め な ど、さ ま ざ ま な 社 会 問 題 が 生 じ て い る。情 報 化 社 会 に お け る 道 徳 の 在 り 方 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 70 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 20 分	
5	道 徳 教 育 の 歴 史 I (修 身 の 時 代) 戦 前 の 学 校 教 育 柱 で あ っ た 修 身 の あ り 方 か ら、公 教 育 に お け る 道 徳 を 如 何 に 教 え る べ き か を 考 え ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
6	道 徳 教 育 の 歴 史 II (道 徳 の 時 間 の 時 代) 戦 前 の 学 校 教 育 へ の 反 省 か ら、「道 徳 の 時 間」と し て 子 童 の 道 徳 を 如 何 に 育 ん で き た か を 理 解 す る。「特 別 の 教 科 道 徳」の 意 味 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 70 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 20 分	
7	道 徳 教 育 の 内 容 I (主 と し て 自 分 自 身 に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 80 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 10 分	
8	道 徳 教 育 の 内 容 II (主 と し て 人 と の 関 わ り に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
9	道 徳 教 育 の 内 容 III (主 と し て 集 団 や 社 会 と の 関 わ り に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
10	道 徳 教 育 の 内 容 IV (主 と し て 生 命 や 自 然、崇 高 な も の と の 関 わ り に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
11	学 校 教 育 全 体 で、子 童 の 道 徳 を 育 む 全 体 計 画 と 年 間 指 導 計 画 を 理 解 す る。ま た、道 徳 に お け る 道 徳 教 育 推 進 教 師 の 役 割 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 20 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 50 分 ・ 発 表 20 分	
12	指 導 の 諸 方 法 話 し 合 い ・ 読 み 物 ・ 説 話 ・ 視 聴 覚 教 材 の 特 性 を 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
13	道 徳 教 育 の 評 価 の あ り 方 を 考 え る 記 述 式 の 道 徳 の 評 価 に つ い て、如 何 に 評 価 を す る べ き か、い く つ か の 実 例 を も と に 理 解 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 20 分 ・ グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分 ・ 発 表 10 分	
14	道 徳 の 指 導 案 の 作 成 実 際 に 各 自 が 指 導 案 を 作 成 し、互 い に 指 導 案 を 批 評 ・ 検 討 し 合 う こ と で よ り よ い 指 導 案 を 作 成 す る 力 を 育 成 し ま す。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 20 分 ・ グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分 ・ 発 表 10 分	
15	模 擬 授 業 と 振 り 返 り - 反 省 を 時 間 の 授 業 に 活 か す 生 か す に は 前 回 作 成 し た 指 導 案 を も と に、模 擬 授 業 を お こ な っ て み る。そ の 上 で、 そ れ ぞ れ が 各 自 の 課 題 を 考 え て も ら い ま す。					事 前 : 模 擬 授 業 と し て、指 導 案 を シ ム ム レ ー ト し て み る 事 後 : 授 業 全 体 を 振 り 替 え し、今 後 の 課 題 を ま と め る		発 表 60 分 ・ 講 義 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
文 部 科 学 省 「中 学 校 学 習 指 導 要 領 解 説 特 別 の 教 科 道 徳 (平 成 29 年 告 示)」そ の 他、資 料 を 配 付 し ま す。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、レ ポ ー ト 等 (50%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
特 別 の 教 科 「道 徳」は 一 人 一 人 が 主 体 的 に 学 び、考 え、議 論 す る 教 科 を 目 指 し て い ま す。積 極 的 に 授 業 に 取 り 組 み、道 徳 へ の 理 解 を 深 め ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特 別 活 動 論 (Methodology of Special Activity)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	増 田 裕 彦 ・ 鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 特 別 活 動 の 教 育 課 程 に お け る 意 義 や 目 標 を 歴 史 的 に も 考 察 し つ つ 、 学 習 指 導 要 領 に 基 づ き 学 級 活 動 ・ ホ ー ム ル ー ム 活 動 、 生 徒 会 活 動 、 学 校 行 事 、 部 活 動 等 に つ い て 、 生 徒 が 主 体 的 に 取 り 組 ん で い く 指 導 や 支 援 の 視 点 ・ あり 方 、 指 導 法 を 学 ぶ 。									
授 業 目 標 : 生 徒 会 活 動 や 学 校 行 事 の 意 義 や 目 的 を 理 解 し 、 教 師 の 役 割 を 理 解 で き る よ う に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 科目の説明や学級委員や生徒会活動などの今まで経験してきた特別活動の振り返りを行いレポートにまとめます。					事前：なし 事後：なし		講義 レポート作成	
2	特別活動の歴史について 過去の特別活動と前回作成したレポートを比較、検討します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
3	教育的意義について「学習指導要領 第5章 特別活動」をよむ 学習指導要領の特別活動を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
4	『学習指導要領解説』にみる特別活動の目標について確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
5	『学習指導要領解説』にみる特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義とはなにか考えます。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
6	各活動・学校行事の目標と内容(1) 学級活動 ①目標 ②内容 具体的な内容を確認します					事前：なし 事後：なし		講義90分	
7	各活動・学校行事の目標と内容(2) 学級活動 ③指導計画 ④内容の取扱い 具体的な内容を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
8	各活動・学校行事の目標と内容(3) 生徒会活動 ①目標 ②内容 ③指導計画 ④内容の取扱い 具体的な内容を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
9	各活動・学校行事の目標と内容(4) 学校行事 ①目標 ②内容 ③指導計画 ④内容の取扱い 具体的な内容を確認します。					事前：なし 事後：なし		講義90分	
10	指導計画の作成と内容の取扱い(1) ①作成に当たっての配慮事項					事前：なし 事後：なし		講義90分	
11	指導計画の作成と内容の取扱い(2) ①内容の取扱いについての配慮事項					事前：なし 事後：なし		講義90分	
12	年間指導計画の作成 実際に年間指導計画を作成します。					事前：なし 事後：なし		レポート作成 90分	
13	作成した年間指導計画の発表					事前：なし 事後：なし		レポートの発表 90分	
14	部活動やボランティアについて					事前：なし 事後：なし		講義90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義90分	
教 本 : 文部科学省『特別活動編学習指導要領(平成29年告示)中学校 解説』 文部科学省『学習指導要領(平成29年告示)第5章特別活動編』 文部科学省ホームページダウンロードしてプリントアウト又は購入					参 考 文 献 : 『特別活動・総合的学習の理論と指導法』 関川悦雄・今泉朝雄編 弘文堂 (¥2,200)				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : レ ポ ー ト 提 出 も 大 き な 評 価 対 象 で す 。 忘 れ な い よ う に 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特別の支援を必要とする生徒の理解 (Understanding and Supporting of Children with Special Needs)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
全 15 回 の 授 業 の 前 半 か ら 中 盤 に け っ け、 特 別 な 支 援 を 必 要 と す る 生 徒 に 対 す る 支 援 理 念 や 教 育 制 度、 生 徒 が 抱 え る 障 が い の 特 性 や 心 身 の 発 達 に 関 す る 基 礎 知 識 ・ 支 援 方 法 を 中 心 に 学 習 す る。 後 半 は、 実 際 の 教 育 現 場 で 直 面 す る 様 々 な 課 題 に 対 す る 具 体 的 な 支 援 策 に つ い て 学 習 す る。									
授 業 目 標 :									
1. 特 別 支 援 教 育 の 基 礎 を 理 解 し、 そ の 必 要 性 を 説 明 で き る よ う に な る。 2. 特 別 な 支 援 を 必 要 と す る 生 徒 の 特 性 を 理 解 し、 適 切 な 対 応 を 考 え ら れ る よ う に な る。 3. 具 体 的 な 支 援 方 法 を 学 び、 教 育 現 場 で 活 用 で き る 知 識 を 身 に つ け る。 4. イ ン ク ル ー シ ュ 教 育 の 意 義 を 理 解 し、 多 様 な 学 び の 場 の 重 要 性 を 考 え ら れ る よ う に な る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	特 別 の 支 援 を 必 要 と す る 生 徒 に つ い て 事 例 を 通 し て 理 解 す る。					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 復 習 (1 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
2	特 別 の 支 援 を 必 要 と す る 生 徒 を 支 え る 理 念 や 教 育 制 度 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (2 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (2 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
3	人 の 発 達 過 程 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (3 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (3 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
4	ASD の 発 達 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (4 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (4 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
5	ADHD の 発 達 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (5 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (5 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
6	学 習 障 が い の 発 達 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (6 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (6 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
7	知 的 障 が い の 発 達 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (7 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (7 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
8	視 覚 障 が い の あ る 生 徒 の 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (8 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (8 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
9	聴 覚 障 が い の あ る 生 徒 の 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (9 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (9 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
10	肢 体 不 自 由 の あ る 生 徒 の 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (10 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (10 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
11	病 弱 ・ 身 体 虚 弱 の あ る 生 徒 の 特 性、 学 習 上 ・ 生 活 上 の 困 難、 学 習 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (11 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (11 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
12	障 が い は い な が 特 別 の 支 援 を 必 要 と す る 生 徒 が 抱 え る 困 難、 支 援 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (12 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (12 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
13	特 別 の 支 援 を 組 み 立 て る た め の 具 体 的 な 方 法 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (13 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (13 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
14	特 別 支 援 教 育 コー デ ィ ネー ター ・ 関 係 機 関 ・ 家 庭 と の 連 携 に つ い て 理 解 す る。					事 前 : 予 習 (14 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (14 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
15	講 義 全 体 の ま と め、 理 解 度 の 確 認 を 行 う。					事 前 : 予 習 (15 回 目 の 内 容) 事 後 : 復 習 (15 回 目 の 内 容)		講 義 60 分 討 議 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「 特 別 の 支 援 を 必 要 と す る 子 ど も の 理 解 」 建 帛 社 ¥ 2,000					「 通 常 学 級 の 「 特 別 」 で は な い 支 援 教 育 」 東 洋 館 出 版 社 ¥ 1,900				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、 小 テ ス ト ・ レ ポー ト 等 (30%)、 定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
本 授 業 で は、 特 別 な 支 援 を 必 要 と す る 生 徒 の 特 性 や 支 援 の 方 法 を 学 び ま す。 一 人 一 人 に 合 っ た 関 わ り 方 を 考 え、 実 践 す る こ と が、 生 徒 の 成 長 を 支 え る う え で 重 要 で す。 主 体 的 に 考 え、 現 場 で 活 か す 意 識 を 持 っ て 学 ぶ こ と を 期 待 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日本史概論 I (History of Japan I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	増 田 裕 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
日本史概論 I では、旧石器時代から鎌倉時代までを扱う。授業では基本的な事項と日本史全体の流れを理解することを目標とし、各時代における重要な歴史的事件・事象を中心に引き上げ、外国からの影響などにも触れる。									
授 業 目 標 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原始・古代から鎌倉時代までの各時代の特徴を考えながら、歴史の大きな流れをつかむ。 ・ 各時代のターニングポイントに重点を置き、何故時代が変化するのか考える。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
2	日本人のはじまり					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
3	縄文文化と弥生文化					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
4	東アジアと日本					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
5	古墳時代と大和朝廷					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
6	律令国家の形成と特質					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
7	平城京時代と天平文化					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
8	平安京と貴族政治					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
9	院政と武士の登場					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
10	平氏と源氏①					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
11	平氏と源氏②					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
12	鎌倉幕府の成立					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
13	執権政治					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
14	幕府の崩壊と蒙古襲来					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
基本配布プリント 中学校社会歴史・高校日本史					「詳説 日本史研究」山川出版社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (30%)、出席レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
レポート提出も大きな評価対象。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本史概論Ⅱ (History of Japan Ⅱ)						科目分類	教職課程科目	
担当教員	増田 裕彦								
履修条件	前提科目	日本史概論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 日本史概論Ⅱでは、室町幕府の成立から第二次世界大戦終了までを扱う。 各時代における重要な歴史的イベント・事象を中心に取り上げ、外国からの影響などにも触れる。									
授業目標： ・政治史を中心として、各時代の特徴を考えながら、ターニングポイントに重点を置き、歴史の大きな流れをつかむ。 ・日本史の基礎知識を習得し、考える力を養うことを目的とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	室町幕府の成立 南北朝と観応の擾乱					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
3	室町幕府の衰退と応仁の乱					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
4	戦国時代と織田信長による統一					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
5	豊臣秀吉の天下統一と朝鮮出兵					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
6	戦国時代の終息と江戸幕府の成立					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
7	幕藩体制の展開					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
8	江戸幕府の揺らぎ ベリー来航と開国					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
9	幕末の動乱とその終結					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
10	明治維新と文明開化					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
11	日清・日露戦争					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
12	関東大震災と大正文化					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
13	第一次世界大戦と第二次世界大戦					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
14	第二次世界大戦の終戦とGHQ					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分	
教本： 基本配布プリント 中学校社会歴史・高校日本史					参考文献： 「詳説 日本史研究」山川出版社				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート提出も大きな評価対象。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	法 学 概 論 (Introduction to Law)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義では、法と社会規範の関係とその差異から出発し、法システムの機能、法の強制力、道徳の共通性と違い、法と正義を概観し、日本の裁判員制度、法の効力など扱います。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>基礎法学、実定法、国際法の基礎を中心に法の基本的な知識を習得し、法学的視点と法学の論理を身につけること。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション 授業の計画、評価などについて解説する				事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	法とは何か(1) 法の存在形式について解説する				事前：法源とは何かについて調べる。 事後：法の存在形式をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	法とは何か(2) 法律と社会規範の関係性を説明する				事前：法と社会規範の違いを調べる。 事後：法と社会規範の違いをまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	法システムの機能(1) 法の規範的機能を検討する				事前：法の規範的機能とは何かを調べる。 事後：法の規範的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
5	法システムの機能(2) 法の社会的機能の理解を深める				事前：法の社会的機能とはどのようなものかを調べる。 事後：法の社会的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	法と強制(1) 法と強制／犯罪と刑罰の関係を考える				事前：法と強制、犯罪と刑罰について調べる。 事後：法と強制、犯罪と刑罰をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	法と強制(2) 刑罰の性質とその正当化は可能かを検討する				事前：刑罰の性質とその正当化について調べる。 事後：法的強制の多様化と変貌をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	法と道徳(1) 法と道徳／自然法論と法実証主義の思想を説明する				事前：法と道徳の関係を考える。 事後：自然法論と法実証主義をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	法と道徳(2) 法による道徳の強制の問題点を考える				事前：法による道徳の強制は妥当かを考える。 事後：パターンリズムと自己決定権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	法と正義(1) 法の目的と正義の関係について説明する				事前：法の目的と正義を考える。 事後：正義観念と法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	法と正義(2) 現代正義論の動向を解説する				事前：正義論について調べる。 事後：現代正義論の動向についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	日本の裁判員制度の概要について説明し、その問題点を考える				事前：裁判員制度を調べる。 事後：司法への国民参加をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	法の効力(1) 法の形式的効力—段階的構造—を解説する				事前：法の効力に必要なことは何かを考える。 事後：法の形式的効力(段階的構造)をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	法の効力(2) 憲法と条約／法の効力の範囲について解説する				事前：憲法と条約の関係を調べる。 事後：法の効力の範囲をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	効力による法の分類を解説し、全体の総括を行う				事前：一般法と特別法の区別を調べる。 事後：強行法と任意法の区別をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
とくになし(資料を配布します)。					授業中に適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等(30%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									